

JOURNAL OF  
JAPANESE PRISON ASSOCIATION

監獄協會雜誌

號 五 第 卷五拾參第



監獄協會雜誌 第三十五卷第五號目次

この運動に参加せよ……………(巻頭言)

受刑者の榮養に關する研究……………司法省監獄衛生官 芥川 信……………(四)

分類拘禁の利弊……………河野純孝……………(七)

時論一筆……………(三)

見たり感じたりしたところ……………司法省參事官 清水行恕……………(二五)

小菅監獄滞在中の所感……………司法省囑託官 正木 亮……………(三九)

監獄學の研究……………文學士 佐々木英夫……………(四九)

職員の勤勞輕減の立場から……………典獄 寺崎勝治……………(五九)

心理學的基調の監獄管理……………見 十 生 譯……………(六六)

米國監獄事情……………辻 生……………(七九)

博 言 博 士……………(七六)

事業功勞者へ金盃授與……………(九一)

監獄統計——檢身に就て——訓令通牒——質疑回答——彙報——會報——兼任廳令——西日比谷より

# 受刑者の營養に關する研究 (自抄)

司法省監獄衛生官 芥川 信

共著

司法省監獄醫務囑託 打田 義芳

## 目次

- 一 緒言
- 二 在監者ノ糧食
  - (イ) 糧食ノ給與 (ロ) 糧食ノ費用 (ハ) 糧食支給ノ現況
- 三 試驗食ノ營養
  - (イ) 主食ノ營養 (ロ) 副食ノ營養
- 四 新陳代謝試驗
  - (イ) 被験者ノ選擇條件 (ロ) 被験者ノ日課
  - (ニ) 試驗成績
    - A. 被験者ノ攝取食ノ營養
    - B. 各被験者ノ排泄尿分析成績
    - C. 各被験者ノ窒素代謝狀況
- 五 結 論

## 一 緒言

國民の健康保全が社會改造の基本定則とさるゝ今日、自由刑執行の結果期せずして生理的生活條件を障害し、體格及び營養狀態に影響を蒙りつゝある在監者に就きて、同様に健康保全を企圖することは社會政策上

甚だ妥當なるのみならず刑事政策上最も重要な意義を有す。然るに在監者の健康狀態殊に營養問題に關しては、熱心な考慮を缺き科學的研索を施せるものあるを聞かず。この時に當り在監者の生活狀態を考究し營養に及ぼす因子を分析し、在監者の保健問題に關する基礎を確立せんが爲に、巢鴨監獄支給食糧、及び在監者に就き新陳代謝試驗を施行したる研究成績を發表して、識者の高教を仰がんとす。

## 二 在監者ノ糧食

### イ、糧食ノ給與

在監者に對する糧食は監獄法第三十四條に於て、其體質健康年齢作業等を斟酌して、必要なる糧食及び飲料を給すと規定さる。越えて明治四十一年改正施行の監獄法施行規則第五十四條によれば、在監者に給與する糧食は、下等白米四分麥六分一人一回三合以下副食一人一日五錢以下と定められ、大正三年四月一日に至り、監獄局長の通牒によりて食糧を十等に分ち、一回の食糧三、〇一一、二合と規定され、現今に及ぶ。而して昨年末の調査に據れば、戰後物價高騰の影響は食糧費の膨脹を招きし結果、主食混炊狀態を米麥の一部に代ふるに比較的低廉なる豆及び甘藷馬鈴薯を以てし、白米二四分、麥二八分豆一四分、甘藷一三分、馬鈴薯一三分を以て各種に混炊し一方經費の膨脹を節し、營養上の均衡を保たんことを計れり。

### ロ、糧食ノ費用

司法省第二十一監獄統計年報により、大正元年より同八年に至る最近八ヶ年間の平均一人一日食糧費は九錢二厘(最高大正八年拾七錢壹厘最低大正四年五錢五厘)なり、主副食代合せて一日一人僅に拾錢内外なるを以て、一見食料の粗悪を想像せしむるが如きも、一面司獄當事者永年の經驗と、周到なる注意に加ふるに共

同厨房の設備、並に野菜類の自作等によりて、比較的低廉にして新鮮滋味なるものを供給し得て營養上支障なきものゝ如し。

ハ、糧食支給ノ現況  
 主食は、各等食に一致する杓子標計量器により炊場に於て計量し、一定の櫃に各一人分を盛り、食堂に運搬し分配す。副食は、各組へ桶にて運び各人に分配す。

### 三 試驗食ノ養價

一九二〇年十二月三日より同十二月九日に至る七日間に、各被験者に分配支給せる調理を経たる主食及び副食を同様に分配秤量し、毎食の主食中より百瓦内外を、副食は全量を汁分、植物性食品及び動物性食品に區分して採取し、乾燥粉末となし之につき、窒素は「キールダール」氏法、脂肪は「限川須藤」氏變法による「ツクスレット」温脂肪浸出法、含水炭素は「バビー限川須藤」氏法により、分析定量を施し該期間食物の養價を檢査したり。

#### イ、主食ノ養價

主食は、東京白米二分挽割麥五分小手亡隠元豆三分より成り、一日量六合六勺價拾二錢五厘にして、蒸氣炊により調理す。七日間平均養價は次の如く

濕量	風乾量	窒素	蛋白質	脂肪	含水炭素	熱量
一八八九 <sub>瓦</sub>	六六四・八 <sub>瓦</sub>	一四・〇九 <sub>瓦</sub>	九〇・〇六 <sub>瓦</sub>	一四・三九 <sub>瓦</sub>	四三九・九 <sub>瓦</sub>	二三〇・六 <sub>ワット</sub>

之を各日に細別すれば次の如し

試驗日	濕量	風乾量	窒素	蛋白質	脂肪	含水炭素	熱量
一	一九四三	六二一・五	一三・五一	八四・四五	一三・八〇	四一〇・一	二一五二
二	一八三七	六八八・〇	一四・四七	九〇・六一	一四・四〇	四四八・二	二三四二
三	一八七二	六五二・三	一四・九一	九三・二八	一五・六九	四一八・八	二二四五
四	一八六四	六六三・七	一四・八〇	九二・五五	一三・〇二	四四二・二	二三一三
五	一八八一	六三七・七	一三・八四	八二・五〇	一三・七三	四一九・八	二二一五
六	一八五六	六六二・九	一二・六五	八七・八〇	一四・八七	四五三・六	二三六七
七	一九七一	七一八・七	一四・四三	九九・二六	一五・二七	四八七・三	二五〇九
平均	一八八九	六六四・〇	一四・〇九	九〇・〇六	一四・四〇	四四〇・〇	二三〇六

#### ロ、副食ノ養價

副食は主として植物性食品より成り、第三日及び第五日の晝食に動物性食品(鰯、鯿)の混合を見たるのみ一日代價壹錢八厘なり、七日間平均養價及び各日の朝、晝、夕調理別品目一人一回量代金養價等次の如し

濕量	風乾量	窒素	蛋白質	脂肪	含水炭素	熱量
八九五・二 <sub>瓦</sub>	八一・九七 <sub>瓦</sub>	三・一三 <sub>瓦</sub>	一九・九七 <sub>瓦</sub>	一三・四九 <sub>瓦</sub>	一一〇・六 <sub>瓦</sub>	二五三 <sub>ワット</sub>





受刑者の栄養に関する研究

二	三	四	五
三三	四五	四二	三三
四七、二〇	四五、六〇	四七、五五	四五、五五
四八、六〇	四六、七六	四八、五五	四六、〇〇
七	八	九	一〇
三三	四〇	三三	三九
四四、七五	四六、〇〇	四六、〇〇	四五、一九
四五、五〇	四七、三〇	四七、三〇	四五、〇〇

試験期間は一九二〇年十二月三日より、同十二月九に至る七日間にして其間の天候気温房内温度は左表の如し。

試験日	天候	氣温				平均	湿度		一日平均
		最高	最低	平均	午前六時四十分		午後八時三十分		
十二月三日	雨後晴	一三、四〇	七、七七	一〇、六一	一四、六	一四、六	一四、六	一〇、二五	
四日	晴	一三、四〇	六、一〇	九、七三	一四、三	一一、五	一四、五	一〇、〇五	
五日	曇	一〇、五五	五、五五	八、〇三	一四、二	一一、五	一四、八	一〇、二三	
六日	晴	一一、一〇	五、五五	八、三三	一三、三	一一、八	一四、二	九、八三	
七日	雪	一〇、〇〇	二、二二	六、一一	一四、〇	一〇、二	一三、四	九、五〇	
八日	晴	八、三三	一、一二	四、七二	一二、四	八、六	一一、六	八、一五	
九日	晴	七、七七	(一) 五、〇〇	三、六〇	一一、八	八、六	一一、八	八、〇五	

温度ハ攝氏ニテ表ハセリ

### 八、試験成績

#### A. 被験者の攝取食養價

各被験者に秤量分配せる主食及び副食の七日間平均一日量の養價は次の如し。

番號	温	量	風乾量	窒素	蛋白質	脂肪	含水炭素	熱
一	二八一四	七五四、一	一七、五〇	一〇九、八	二八、一一	四五七、一	二五八五	
二	二七九三	七四六、九	一七、三三	一〇八、八	二七、九二	四四一、一	二五五四	
三	二八一九	七五〇、八	一七、三八	一〇九、一	二八、一〇	四五二、八	二五六六	
四	二七九四	七四一、七	一七、二三	一〇八、六	二七、八四	四四八、六	二五四二	
五	二七九九	七四五、二	一七、二九	一〇八、六	二八、一六	四四九、六	二五五〇	
六	二七八一	七四二、三	一七、一八	一〇七、八	二七、七七	四四八、六	二五四〇	
七	二八〇八	七四四、七	一七、三〇	一〇八、二	二八、一〇	四四八、六	二五四四	
八	二七八五	七四三、一	一六、九八	一〇八、九	二七、七二	四四八、一	二五四一	
九	二八四二	七五二、七	一七、五三	一〇八、五	二八、五一	四五三、三	二五七四	
平均	二七三二	七四二、七	一七、二二	一〇七、二	二六、六〇	四五二、八	二五四二	
平均	二七九七	七四一、九	一七、二九	一〇八、六	二七、八八	四五〇、一	二五五四	

#### B. 各被験者排泄尿分析成績

尿は一般に軟にして量多く、豆の如きは不消化の儘排泄されること尠なからず、秤量採取分析し七日間平均一日攝取食量と比較して、攝取食の不吸收率を計算するに次の如し。

番號	攝尿	風乾量	窒素	脂肪	含水炭素	不吸收率	脂肪	含水炭素
一	七五四、一	一七、五〇	二八、一一	四五七、一	一四、七	三五、五四	五四、九二	二、三六九
二	七四〇、九	一七、三三	二七、四四	四四一、一	一三、三九	三三、三七	五四、〇〇	二、八八一

受刑者の栄養に関する研究



は略室素出納相半せり、故に被験者は一般に規程の糧食を攝取し規程の勞動に就業するときは、窒素代謝は均衡を維持することを知るを得たり。

## 五、結 論

一、巢鴨監獄に於ける五等食は、主食一日量六合六勺にて、主食副食を合し蛋白質一〇八、六瓦脂肪に七、八九瓦含水炭素四五〇、一瓦總熱量二五五四カロリーヲ有す。

二、吸收率は甚だ低く、吸收活用量は蛋白質七〇、二七瓦脂肪一三、四一瓦含水炭素四三五、二瓦總熱量二一九七カロリーなり。

三、食品の粗悪、野菜食の過度主食混炊調理法の不備及び急速なる攝食による咀嚼の不十分等は徒らに胃腸を過勞し、其の吸收率を低減し排泄尿量は攝取食の一割四分餘に達し、營養價の損失多太にして蛋白質は三分の一強脂肪は二分の一強を失ひ、特に含水炭素は從來の研究成績に比して著しきを認む。

四、在監者の體重は何れも比較的輕少なるを以て、吸收活用異常に低きも、體重一疋に對する熱量は四六九二カロリーにして、略常態にあるも體表面積平方米に對する熱量は一三七八カロリーにして、腸面積平方糧に對し〇、五三「ネム」にして、立業中等度の作業者には稍適當量を缺くもの如し。

五、窒素代謝は平均一、〇四瓦の沈着を見、略室素出納の均衡を保ち體重と共に辛じて沈着増加の傾向を認む六、故に監獄生活に馴れたる在監者に對して、其の一度低下したる體重、並に新陳代謝の平衡を維持するには先づ現今給與さるる糧食にて大なる支障を見す。

七、一日排泄尿窒素平均量が一〇、二〇〇瓦體重一疋に對し〇、二二瓦にして、邦人の平均數を超過す、是要するに蛋白質消費の過度なる目標となすを得べしか。(因ニ本論著ノ文獻ハ省略セリ)

# 分類拘禁の利弊

河 野 純 孝

行刑制度の革新を競ふ現代世界の趨勢に際して、我國監獄の現狀に於ても分業的施設と専門的智識の要求が段々盛んになつて來た、幼年監、女監は各地方に既に設置せられ、又東京に於ては、初犯者、累犯者、長刑期者等に分る其の收容すべき監獄を區別して、行刑上分業の事實が示されて居る、この分業に伴ふて之れに當る職員にそれ相當の専門的智識を要求すること、爲つて來た、今後行刑制度調査事業の進捗するに隨つて、更に又種々の分業的施設の出現と同時に、その分業に就ての取扱上亦大に研究を要する事が多く爲つて來るのであらうと思ふ。凡そ何事でも一利あれば一弊の之れに伴ひ來るは自然の數であるので、その利の方面を發達せしむることに勉むると共に、他面に於て其弊を除くの策を講せねばならぬ、分業と云へば、分けて仕事することとなるも、分けると同時に亦大に集める事實となるのであるから、この集分離合の關係に於て利弊兩つながら特に有益なるべき分業も或は不成功に終るの恐れなしと斷言し得られるものであらうか。

現今特別に設けられて居る幼年監女監は所謂分類分業の意味に於て、或る區域内の地方に發生した少年受刑者及婦女受刑者を集合して拘禁すること、爲つて居る、この分類的集合より來る利益は、管理上、處遇上、作業上、教育上、或は監房工場の建設上、諸機械器具及被服の設備上、殊に適當の職員を適當に配置し得ること等、

枚擧に違わらざる程のことであるから、行刑上の効果として特に有望なるは固より申すまでもないことであるけれども、是れ等利益のあると共に各地より集合の結果として現に不利と認むる所の點は、

- 一、親族の接見に不便を感じる事
- 二、出監時の送迎に勞力と費用とを増加する事
- 三、氣風著しく異なる都鄙の少年少女を混合する事
- 四、多數の集合に依て羞恥心を破滅する事

第一 親族の接見に不便を感じる事は如何であるかと云ふに、元の監獄に置かれたならば親や兄弟が接見に往くに近うて便利なるも、他の監獄即ち特別監獄に移された爲め、距離が遠くなつて、半日で往ける所が一日かゝり、一日で往復出来る所が宿りがけで往かねばならないやうに爲つた者が段々多くなつて來た。固より元の監獄でも、地方に依りては其父兄の住處からは三十里も四十里も隔たりて、而も交通機關の不備なる所では、宿りかけて往かねばならぬ所もあるけれども、元の監獄なれば極めて近かつたものが、特別監獄に集合させられた爲遠くなつて著しく不便を感じることもなる者が多いのである。この父母兄弟の面會と云ふことは、少年少女の受刑者に對しては、教化上又精神慰安上誠必要なことであるから、何んとかして其移監に由つて生じた不便の事情を幾分たりとも軽減すその方法を立てたいものである。少くとも無資力階級の親族に對しては、一年に二回位接見に出掛ける旅費の實費を何れかの方面より支給し得るの方法でも議せられては如何であらふか。

第二 出監時の送迎に勞力を費用とを増加する事も亦移監の爲に歸住地が遠くなつたからである。その特別監獄の職員若くは其地方の保護機關から之を送り行くとしても、或は其出監者の父兄親族が引取りの爲め迎へに出るとして見ても、その勞、その費、共に増加するは當り前のことである。この點に就ても、保護機關の勞費は之を厭はないこととするも、無資力階級の人に對しては物質的の便宜を與へる方法を講じたいものである。

第三 氣風著しく異なる都鄙の少年少女を混合する事は、教化上甚だ不得策のことである。東京のスレツカランの不良少年と埼玉縣の秩父邊の不良少年とは、同じ不良少年と云つても、その氣質に素朴と狡猾との差があり、その犯罪行爲に拙劣と惡辣との別がある。然るに之を一監獄内に集合することは、假令その監房若くは工場に於て性格的分類を爲すと云ふも大體に於ける集合の結果が、その氣風に惡影響を受くることは亦免れないことである。獨り東京地方のみでなく、名古屋、大阪、神戸、廣島等の大都市のスレ物と、其接續地方の山村僻地の者と同一に監獄に於て處遇すること亦特に考へものであらふ。この事項は物質的方法に依て其不利の點を除去することは出来ないものであるから、専門當事者の研究に待つより外に致し方がないと思ふ。

第四 多數の集合に依て羞恥心を破滅する事は是れ亦著しき事實である。如何なる犯罪人でも多少羞恥の念は存して居る。その證據には五犯六犯の累犯者でも、重ねて入監して來た時に、又來たかと言ひ掛けると垂頭してキマリ悪い様な態度が見へる。近來少年犯罪者が殖へたと言つても、成年犯罪人に較べて見れば其數は遙か少ない。殊に女子の犯罪は男子に比して著しく少數である。故に東京や大阪の如き大都會の拘留監に於ては少年及婦女の數随分多いけれども、他の地方の拘留場では五名か十名位のものである。その五名十名の者が愈裁判確定して依然その監獄で執行せらるゝことであるならば、その受刑者の其日々々の現在數は二十名内外に過ぎないであらふ。然るに之を特別設置の幼年監女監に移され見ると、必ず六七十名以上二百名内

外の多數と爲つて來るのである。その同類の数の少い場所では、自分が犯罪したと云ふ點に就て深く恥づる情があるも、その同じ犯罪人として扱はるゝ者の数が多くなつて來ると、犯罪に陥つた者は自分ばかりでなく、前後左右に澤山居ると思ふて來ると羞恥の念が段々薄らいで來ることは、彼等の少數の場合と多數集つた時とに於て、その態度に著しき相違ある實例が見へる。吾人が過去の經驗に由つて考ふるも、自分獨りで失策のあつた時には、地の底へでも隠れたいやうに恥かしく思ふことがあつたけれども、他の場合自分と同じ様な失策者が續々出て來ると、何んだか意を強ふると云つた様な氣分になつて、失策に就ての羞恥の念が順に消へて、何となく圖太い氣分に爲つたやうなことがあつた。之れは一般の人に共通する心理作用であると思ふ。是れは同類が多く集つて生ずる所の精神的方面的弊害である。この弊害を無くするには特に教育上處遇上管理上に於て精細の研究一遂げねばならない。この精神的弊害果して除去し得られるものであらうか今後少年法の實施に於て少年受刑者の數を減じ、累犯者の少い婦女に對して不起訴及刑の執行猶豫の數は、現在よりも更に増加されることであらうと思はるゝ故、持設せる幼年監獄及女監に於ける收容人員は將來に於ては其數を減せらるゝ筈であらうけれども、尙少年と婦女とを集合拘禁することの得失に就ては、この事項を重要な問題とせねばなるまい。



時  
論  
一  
叢

能率を増進する食物

山本条太郎

日本人はまだ、肉食が足りない。我國民の平均労働能率は他の列強に比して著しく劣つて居る。それは肉食をしないからである。近代の學理や實驗によれば、蛋白質、脂肪、カロリイ等の調和を綜合して、獸肉は最も便利な食物たることは、已に定説となつて居る。現在我國民の肉食量が如何に貧弱であるかは左の表を見れば直ぐ分る。

英國	牛肉	一八九〇〇封度	鶏卵	一一一個
米國	牛肉	一八五〇〇封度	鶏卵	一九二個
佛國	牛肉	八六、〇〇〇封度	鶏卵	一一〇個
日本	牛肉	二、一八〇封度	鶏卵	二〇個

日本人に大に肉食を奨励するのは、何と云つても安く提供する方法を講じなければならぬ。實際日本程獸肉の高價な處は世界にならぬ。世界の物價は段々低落しつゝ、あるにも拘らず、我國では却つて漸騰の趨向を示し、特に肉類に於てそれが甚しい。これは配給の設備と制度の不備が重大なる原因を爲して居る。冷蔵設備の如きも其一例である。英國では約七十萬噸の冷蔵庫と三十五萬噸の冷蔵船を備へて居るし、濠洲政府は之を官營にし、加奈陀政府は建設費の三割を補助して其設備を完成して居る。然るに我國では海陸共に完全な設備が絶無で、政府も更に何のお構ひがな。濠洲肉や青島肉が産地では百匁の原價が僅かに十五匁位であるのに、我東京市民は之に對し一圓以上即ち倫敦市場の二倍を支拂つて居るのである。又魚類でもカムチャツカで

鮭魚一尾の原價二十匁内外のものが、東京市では小賣値段が、圓以上を唱へて居る。これ等は斷じて合理價格とは謂へない。而も是等の原産地では供給が豊富にあるのであるが設備をよくし配給を適當にすれば、肉類はズン／＼下つて來るに定つて居る。獸肉の低落は悉て一般の日用食料品の低落を伴ふのであるから、一日も早く之が施設を完備して國民生活の改善を圖らねばならぬ。更に又一方から見ると、我國の如く牛馬の畜産が貧弱な事は世界に珍して食用の點から見ると、努力經濟の點から見ると、畜産の獎勵は國民生活の改善に伴うて緊切な要件である。

一外雜語に、我國民の牛數は器械的動力及び牛馬代用の勞役に從事して居るものだと評してあるを見たり、これは我國民を侮辱した言には違ひないが、而も實際の狀態からいへば遺憾ながら、それは本當だから仕方がない。印度の如き古來政策の爲め佛教で肉食を禁じそれに依つて耕牛の繁殖を奨励し既に農業國として今日の大を爲して居るが、既に印度には一億七千萬頭の耕牛が居る。之と殆ど同一事情の許にある日本では、それが僅かに百三十萬頭にし過ぎないか云ふのは如何にも情ない。

努力經濟は文化生活の要素で、農事改善には特にそれが必要である。宜しく生牛馬の輸入税及び内地諸税を免除して大に畜産を奨励

すべきである。今試に重要畜産國と我國との人口千人に對する畜牛數を比較して見る。次の如き非常の懸隔を見るのである。

アルゼンチン	四、二〇〇頭
二、二〇〇頭	
米 洲	八〇〇頭
日 本	五〇〇頭
印度	二〇〇頭

現代

### 兒童心理と不良行爲

文學士 寺田 精 一

如何に不貞な行爲を致すものであるか、それが兒童である限り、一般兒童に見られる勝ちな心理的特徴が見られるのは最も自然なことである。のみならず兒童期に於ける心理的特徴が、不良行爲に至らしめ勝ちなことも頗る多い。其主なものは次のやうなものである。

イ、空想。兒童の發達に於て、空想は頗る尊重すべきものである。けれどもそれが兒童の年齢や境遇に對して不相應なものであると、それ自らの爲めに直接間接に不良行爲に至らしめることがある。時には浮浪、家出、財物窃取又は恐喝として、空想實現の第一歩の進められることがある。けれどもそれが單純な性質のものであれば、敢て狼狽すべきものでもなく、童話的感興に酔へる

ものさ大なる相違はない。唯其程度が單なる空相の境を逸して妄相に進んで居る場合には、其精神異常に對して特殊の醫學的處置を採られなければならない。

ロ、優越感。何人も一個の個體を有して居る以上、他よりも優越の狀態にありたいは本能的願望である。この願望が、生活活力の最も旺盛な兒童に、時には極めて些細な愚にもつかぬことまで、最も強く現はれるのも當然なことである。彼等の日常生活は、少からずそれに支配されてゐる。虚榮もこの優越感の一つの現はれである。それが一には殘忍性となり、不貞團の團長たるの満足となり、又他を征服しての快感となり、又飾身への努力となり、或は又強喝行爲に對しての感興ともなる。然も他面に於てその優越感に兒童の向上發展に、最も肝要なものである。従つて其現はれ方に教養訓練の問題が生じて来るのである。

ハ、冒險慾。生活活力の旺盛な者は、自己の力の運用を自らに對して、特殊の要求と感興とを有して居るのが普通である。兒童は恰もかかる心身の狀態を有するもので其特殊な現はれ方に、困難なことを企て、實行しやうとする冒險慾が生じ冒險の爲めの冒險を愛好し、それ以外に何等目的なき不健全な粗率な行爲に至ることがある。

ニ、好奇心。知識慾旺盛な兒童は、自己の周圍に對して常に感興を以て對して居る。そ

こに兒童の外界順應性も養はれるのであるが、又彼等に力強く働いて居る好奇心も働く。其好奇心は單に外界に對して消極的に向ふのみでなく、積極的に求めて進むやうに發達して行く健康な生活を保持して居る者に程度上に幾分の相違を認められ、上の者に積極的に好奇心が働き出して行く。先見のない又目的の不確實な輕率な不良行爲がかくして行はれることも少くない。従つて道徳的に善惡を以て批判され難いやうな現はれ方をするのである。

ホ、模倣。兒童の生活の極めて多くは模倣によつて進められて居る。而して模倣は善良の方面に向ふと同一やうに不良な方面にも向ふのであつて、其上に冒險慾や優越感の好奇心が協働して一層彼等の模倣性に力を与へるのである。不良兒童の最初の不良行爲が單純な模倣で開路されて居る場合は極めて多い。けれども假令單純な模倣で開路されても不良行爲の殆ど總じて伴ふ何等かの利益や感興は頗る容易に彼等を模倣の不良行爲に進めるものである。但し不良行爲には又何等かの不安や制裁の伴ふものであるが、それを忘れて行はしめるには或不健全性の存在を心づかひしめる。この意味で單純な模倣によつて初められた習慣性不良行爲が必ずしも健全な心身の所有者に見られる偶然の結果であるとはいはれないのである。

ハ、團體的感興。不良行爲は團體的感興を味ふ一つの手段たるに過ぎなくて不良行爲それ自體には特別な執着を持つて居ない場合すら少くない。然も其團體的感興は兒童の將來の社會生活には最も必要である。唯其現はれる方面が不健全であることから不良行爲として取扱はれるに過ぎない。従つて不良兒童に屬する者の虚偽が反動的に過度な孤獨の中に、て矯められるならば、角を矯めんとして牛を殺すものである。

ト、生活の變化。兒童は外界順應の本能と好奇心とを有するが故に、自己の生活の單調を喜ばぬものである。時には其境遇を變化することは大人以上に要求されてゐる。況して茲に述べた家庭生活に於て兒童に好ましくない要素のある場合には一層その傾向が著しい。外親的に幸福な家庭の兒童と思はれるのが、家庭外の俱樂部や下宿や野外の生活を愛好するは、假令其家庭に甚しい缺陷はなくても兒童には現はれ易い一面である。兒童の不良行爲として知られて居る彷彿や浮浪が上のやうな要求のために行はれて居ることが少くない。故にかゝる兒童が過度に單調な生活に置かれる時には其生活から脱出せんとされて幾度もそれを繰返すことがある。かゝる場合に脱出者の脱出目的としては何等指定のものを見出されな

この要求に重なる原因を有して居ることも少くない。

イ、食物に對する慾求。所謂不良兒童として取扱はれて居る者の中には買喰の癖を主な一つの不良原因として居る者が頗る多い。若し其取せんとするものが普通の食物であり又甚しい過量でもないならば普通の兒童に見られる傾向ともいへる。然もかかる慾求も變化慾や好奇心などから家庭に於て與へられるものよりも賣店に求め様とする事が多く、其結果詐欺や窃盜や横領に至らしめる事も少くない。

リ、性慾。青春期に入つた頃の者に於ては他の心身の性能が未だ完全に發達してゐないのに拘はらず、性の要求が特に著しく現はれる事が往々ある。己の者は盲目的に性の衝動に支配されて自己の行爲の善惡も考へる餘裕なく夢想的な新生活を進めて行くのである。但し時には頗る早熟的の傾向を有し、時には不良行爲によつて誘發され、自己の他の生活關係と不調和な狀態に現はれ其爲に直接若しくは間接に不良行爲をなすに至る事がある。——兒童研究——

### 醫學博士 小酒井 不木

意味の言葉として取り扱ふに過ぎない。人は各其の顔貌の異なつて居るが如く、其の性質もまた互に根本的に相異つて居るのであることはいふまでもない。犯罪學に於ては個人鑑別法なるものがあつて（例へば指紋の如きもの）、明かに各個人を鑑別するものが出来るやうになつて居る。其他心理學上、生理學上病理學上からも個體の著しい相違が證明せられて居る。ことに最近病理學上、體質、委實といふことが矢張り論議研究せられることとなつた。これは前にも述べた如く、疾病の内因であつて、外因よりも重視すべきものと云はれて居る。體質の定義は學者に區々の意見があるが現に角個體の病氣は其の個體にその病氣に纏る性質が存在するから生ずるので、この性質は先天的に種種に固着して存する。同時に、後天的に色々の事情によりて生起せしめらる。結核に罹り易い性質は、ある場合には之を外因からも見る事が出来るのである。これを癆瘵委實と名けて居る。結核の遺傳するといふのはこの性質を遺傳するといふ意味に於て正しいのである。結核は勿論遺傳のものがその内因となるものではなく、またこの癆瘵委實のあるものが必ずしも、結核に罹ることは限らない。

委實體質はいふまでもなく幾種類もあつて一々枚舉するの勞を省くが、體質は各個人の間にて、その一部分に相通する所があつても全體としては決して一致するものではない。



見たり感じたりしたこと

### ◇ 廢物利用の觀念

決して物を無駄にしない。單に質素で儉約であるといふこと許りでなく、廢物を利用して物を活かして使ふといふ考を有つて居るのを非常に羨ましく思ふのであります。

戰爭の結果廢が非常になくなつた爲に麻糸を造ることが出来ぬ。そこで悪い紙をどうかして紙燃にして紐の代用をして居る。多少は弱いのでありますが、紐を立派に拵へて居ります。それから先程申しました通り革が無くなつたから紙を革に混せて立派な革のやうなしのを造り。それから卓子掛のやうなもの紙でやる。石炭が不足して困るミョウタスを纏めてブツクといふものを考へる。兎も角も非常に優れた石炭よりも火力が強いやうな物を作つて居ります。さういふ廢物利用することが非常に進んで居ります。

### ◇ 鶏の羽毛はどうするか

茲に非常に短い挿話を挿みますが、私は伯林で語學を學ぶ爲に中流の家庭に厄介になつて居つたのであります。其主婦と時々談話を試みたのであります。日本の生活振りの事から日本では鶏のやうなものを食ふかといふことであります。鶏を食ふのは不思議もかといふと、端の方を食ふと云ふと殘りは丸で汽車の窓から捨て、仕舞ふ。それから料理屋に行けば要りもせぬ物を無闇に取つて、少し食つて見て不味いと云つて下げて仕舞ふ。又それを誇りとして居るやうに吾々感ぜられる節が随分ある。

此日本のやうに貧弱な貧乏な國民が廢物利用所が無駄なことをして得意になつて居るといふことは、日本全體として心細いではないかと思ふ。一事が萬事で斯の如き現象が總ての方面に現れるではないか。さういふ事をする者が工場の主任者になれば、工場でやる仕事はさういふ事になるであらう。是が役人になれば矢張りさういふことをしはしないが、まあ杞憂でありませうがさういふことを考へるやうになる。熱々さういふ點を考へさせられたのであります。斯の如く獨逸人といふ者は廢物利用の觀念を有つて居る譯でありますから戰爭の困苦にも堪へて、而して戰爭に依つて缺乏したる物質を何等かの他の方法で詰まらぬ物から利用して補助にするといふやうな有様であつて、頗る日本人が眞似なければならぬ。

見たり感じたりしたこと

ないのですが先方では疑問にして居たと見えてさういふ質問を致しました。「無論日本では食ふ」と云ふと、「肉は食ふが骨はどうする」「骨はツツパにする」「足はさうする」「頭はどうする」「毛はどうする」といふことを聞いた。其毛の始末にちよつと返答に困つた。「羽根は大抵の所では捨て、仕舞ふ」と云つた所が、其主婦は頗る驚いたやうな顔をして居る。「日本人といふものは非常に經濟の知識に乏しいものである。羽根を捨てるさういふことは一體解からぬ、羽毛を存在して置いて羽根蒲團を造る、造るべき蒲團が無ければ蓋へて置いて賣る」と云つて居りました。

斯の如くどんな詰らぬ物でも無駄にするといふことではない。廢物を利用するといふことは、獨逸人の「モットー」信条であるといふことを聞へたのでありまして、私は頗る感に打たれたのであります。

### ◇ 不經濟な日本人

私共は廢物を利用することを知らないのみならず不生産的の人間である。さういふことを言はれると何とも返答の出来ない人間であります。

日本人といふものはさういふ觀念に乏しいと思つて、歸つて來て旅行をして見ると、汽車の中で辨當を食ふ、それがどんな食方をする

のみならず獨逸の將來に有利なる重要な因子を爲すものであらうと思ふ。

### 獨逸は老成してゐない

尙ほ私が獨逸に行つてもう一つ感じたことは獨逸は私が日本に於て考へて居つたやうに老成して居らぬといふことであります。成程今申しましたやうに獨逸人の資質は良い。儉約である。而して實質的生活をして居る。廢物利用の精神が瀾漫して居る。金の如きも十四カラット以上のものは使はぬといふやうな質實なる特長はあるが、併しながら獨逸といふものが老成して居るといふことならば是は將來をトすることは容易であります。如何に資質が良くても老年に達して居れば恢復する時期が無いといふことになるのであります。獨逸の國民は決して老ひて居らぬ。即ち青年の時期に在ると思ふ。と云ふのは非常に單純である。初めはつきが悪いが非常に親切で、一見傲慢なる如くであるがなかく温情を有つて居る。さうしてちよつと褒められると煽てに乗

見たり感じたりしたこと

る洵に單純な國民、而して日本人が一般に考へて居る程に必ずしも文明で無い、野性を有つて居るといふことを發見したのであります。此點は言換すれば獨逸人が青年期に在てる、英吉利、佛蘭西の如く老成の域に達して居らぬといふことが云へやうと思ふ而かも青年期の獨逸人が相當に良い資質を備へて居る。而して頭腦が秀で、居る。近來の科學は獨逸人に負ふ所が多いといふ程秀で、居る人間である。質素である。相當に體力が良いといふことでありますならば、此方面から云つたならば獨逸の恢復といふことは可能であると思ふ。是は唯だ獨逸人の資質といふ方面から見たのであります。

英米には獨逸を叩潰す意志はない

もう一つ外交的に見ますれば、英吉利とか亞米利加といふものは成程獨逸と戦争はしたのであります。が、英吉利の立脚地といふものは獨逸を根本的に叩潰す立脚地ではない。又英吉利の利益とする所ではない。

恢復せしめやうといふ立場になつて居る。オーバシーエレンの問題でも、佛蘭西は波蘭を強くして露西亞と獨逸の聯絡を絶つて、其機に波蘭を置かうといふ觀念からオーバシーエレンの國民投票なども波蘭に有利のめうにしようといふのでありますけれども、英吉利などでは決してそれを喜ばない、成るべく獨逸に有利にしたい。又波蘭は一度倒れたものでありまして、獨逸の經營して居つたオーバシーエレンの總統を波蘭の手に委れたならば破壊に至るであらうといふ、危険のあるが如くに波蘭の施設といふものは貧弱なものに思はれて居るのでありますから、斯ういふものを波蘭に委せて置くといふことは獨逸の爲めのみならず歐洲全體の爲に宜くないといふので英吉利の方では有利の方法を考へて居るやうであります。最近聯盟會議で獨逸の馬克が流通するといふやうなことで一部分を波蘭に割くといふこととして居るやうでありますが、さういふやうな傾向を持つて居つて、些米さいふやうなものは獨逸を餘り慮めなさいといふことは餘程獨逸の利益である。

獨逸は恐らく償金の全額を拂はないか?

それからもう一つは獨逸か最も苦痛とする所の二千億馬克の償金の問題であります。是は私は斯ういふことを申上げるのは間違つて居るかも知れぬが、恐らく此償金を引續いて支拂ふものであるかどう

見たり感じたりしたこと

英吉利は獨逸が餘りに發展を致しまして、其英吉利の唯一の誇とする海運途が段々凌駕されさうな形勢になつた。是は獨逸で元インペラトルと稱へた船で確か五萬六千噸、是に日本の噸では無いのでありまして、日本の噸で申すならば倍數位になると思ひますが、獨逸が使つて居つたのを英吉利が取つた、それから今竣工しませぬが、漢堡の港に横つて引渡すべく造つて居るビスマークといふ船がありすが、是はもつと大い船であります。戦争がなかつたならば偉大な船が海洋の上に浮んで英吉利の海運權を脅威するやうな有様になつて居つたので、競争上獨逸の鼻柱を折りたいといふ所から露佛等と結んで獨逸を討つたのであります。英吉利の本音は左程迄に獨逸を打潰さうといふ考は持つて居らぬ。況んや亞米利加に於きましては、亞米利加の人口の三分の一迄は獨逸系の人間であります。皆其所等の商店を見まして獨逸人の名前が澤山ある。斯の如く亞米利加には獨逸系の人間が澤山あつて獨逸には相當の同情を持つて居る。亞米利加も獨逸をさう叩潰さうといふ 念を持つて居らぬといふ譯でありまして、此點が根本的に獨逸を潰して再び立つ能はざるやうにして中欧に覇を唱へやうとする佛蘭西とは非常に心持が違ふ平和條約締結後に英佛が争を致してロイドジョージとブリアンが始終喧嘩をして居る、新聞に現れる記事は兩氏の喧嘩が多いやうになつて居るのでありまして、獨逸が外部の壓迫が少くなるといふのが獨逸の強味であります。斯の如く英米が何所迄も慮めない、獨逸を

うかといふことは疑問と思ふ。佛蘭西は自分の立場から取りたいでありませうが、英國とか亞米利加とか、其他の國が最後迄償金を要求するかどうかといふことは餘程疑問であると思ふ。獨逸の産業状態が悪くなればなる程償金問題が獨逸に有利になると思ふ。償金で獨逸を虐めるといふことは、即ち獨逸を潰すといふことでこれは歐洲全體の爲に不利益である。是は償金を止めやうではないかといふ案が必ず出るであらうと思ひます。

さういふことを云ふと想像を云ふやうであります。義和團事件も英米獨佛いろ／＼の國で償金を取ることになつたのであります。之を徹底的に取つた所はない、各國が追及して取立てるとはふことになるかどうが疑問であらうと思ひます。獨逸の全力を注いで拂ふまいとするであらうと思ふ。現に巴里會議の結果、此春でありましたが、二千億馬克の償金が決定されて之を拂へよといふ時に、獨逸の内閣は逆も拂へない、非常に減額をして、四十何年でありましたが、其間に拂ふといふやうな條件を提出して、其結果倫敦會議になつてシモンズといふ人が倫敦に行つて交渉したのであります。一方に於てはライオンランドの占領などが起つて、最後通牒まで出し

見たり感じたりしたことを

て、英佛白米といふやうな軍隊がラインの河畔を占領したのであります。其間に今年の五月でありましたか、獨逸の内閣が倒れてピルト内閣が出来ました。此内閣は全然全部應ずる、斯ういふ立場になつて、是が國民全體の信任を博して此内閣が出来たのであります。此點は今喧嘩をしても仕方がない、償金を減らすといふことは問題にならぬ。

だから今は深く聯合國の要求を容れて誠意のある所を示して、さうして同情を買つて置いて、さうして相當の時機に於て償金を上めるといふ、減額をするといふ機運を造るといふことを考へたものではないかと私は想像をするのであります。償金問題も之を以て必ずしも獨逸の運命は極はまつたといふ議論も私はどうかと思ふ。

### 新獨逸の奉ずる信条

私のやうな門外漢が政治や外交の事を申して甚だ恐縮致すのであります。其等の立脚地からして獨逸が相當の時機に恢復するといふやうなことになるはしないか、詰り獨逸の國民性が良い、而かも現在

「社會主義とか、ヴォルセグキズムといふものをどう考へる」「さういふものは獨逸の恢復の敵である、さういふ不健全の主義は獨逸の信条とすることを欲しないのだ」と言つて仔々として働いて居るのを見て感じたといふことで、國家的觀念は實に旺盛なもので、一生懸命に働いて居る。

### 上半期だけで日本へ一千万

それから染料の如きもどうかといふと、いふと、いふと、出て来る。一昨年は二十五萬圓しか這入つて来なかつたものか上半期だけで日本に一千萬圓這入つて来た。近く戦前の輸入額に達するであらうといふ程に多數這入つて来た。

巴里に行つても獨逸の品物が澤山ある。英吉利に行つても澤山ある。亞米利加に行つてもさうである。北米合衆國が自分の市場である。信じて居つた南米等も從來の通り非常に壓迫を感じて居る。組の日本人の商人に聽いて見ました處、直接には這入つて来ないが、チエックとか、奥地利とかで製造したといふ名前、亞米利加に多少獨逸の商品が這入つて来る。獨逸から直接出すといふことになる。平和條約の結果二割七分の税を課せられるので、さういふ名義にな

見たり感じたりしたことを

非常に發展を示して居る。のみならず外部からの壓迫原因といふものが次第に緩和される状態である。此等の事項を段々考へて見ればどうも恢復するものであると考へるのが私は相當ではないか、諸君の御判断に委かすことではありますが、私一個としては相當の時機に於て、多くの人の想像するよりも割合に早い時機に恢復することになるではないかといふことを考へて居ります。

現に戦後獨逸の船腹の如きも年昨の一箇年に六十萬噸も新造船が出来た。此中或るものは平和條約の結果引受するものであります。それから露西亞等から澤山の注文を受けて列車を造つて居る。獨逸の國內でも新しい列車が澤山出来て居るのであります。獨逸に居る間に新しい列車を澤山見たのであります。最近の新聞に依れば世界第一の飛行船を英吉利から注文を受けて獨逸で建造することになつて居るといふことでもあります。それから各種の機械がどん／＼外國に出て行く、それから礦山の採掘といふやうなことも戦前よりも餘程盛である。それから労働者でも國家を思ふの念が厚くして、非常に努力して働く、或る日本人が労働問題研究に行つて、礦山に這入つて礦山の坑夫に話をした。

つて這入つて来るのであります。それで海運はどうかと云へば、戦時中各國で這つた船腹が過剩になつた、英國に付いて云へば、ハルイツといふ港がありますが、其所には獨逸から獲つた船が抱つてある。紐育に行けばイドソンリパーには獨逸から獲つた船が澤山抱つてある。自分の國の船が剩つて居る所に獨逸から獲つた船は使途が無いといふので、英米の海運は今や非常に沈衰の状態に在る。所が獨逸はどうかといふと、前申しますやうに貿易が非常に進んで来た。輸出が多くなつて来た、船腹が澤山要る、船が無くなつて居る。だから英米等の各國に引渡した船を安い金で買戻すといふやうな必要がある。

斯の如く獨逸の海軍といふものは割合に景氣が好いといふことであつて、私は日本の或る海運業者に聽いて見ました所が、妙なものである。列國は獨逸を苦しめむが爲に獨逸の船を取つた。さうして獨逸を海軍界から葬つて仕舞はうとした。所が英米は却つて海運の衰頹を來して困つて居るが、獨逸の國旗が到る所に殖えるやうになつて来た。人を苦しめやうとした所がなかく、さうもいかぬものだといふやうなことを話して居りました。さういふ風で相當に

見たり感じたりしたこと

景氣を執回して居る。而かも獨逸の輸出は非常に好況を來たして居る。是は獨逸の馬克が非常に安いといふことが一の原因をなして居る。馬克が安いといふことは獨逸人に對しては今日非常に不利益でありまして、獨逸の國民に取つては非常な打撃でありすが、對外的に觀ますと獨逸と商賣をすることは非常に利益であります。

爲替値段の安い日本とか、英國とか、亞米利加といふものは獨逸から物を買ふことは非常に廉い品物を買へる。さうして實が良いのでありますから獨逸の商品が割合に出る。それで獨逸の輸出が割合に早く恢復するといふことになる。馬克が下落するといふことは獨逸の利益ではない、片爲替といふことになつて、出すには良いが、外國から品物を買へないといふことでありますから、獨逸に取つては考ふべきことであります。兎に角他利の爲替が安いとか、波蘭の金が安いとか、露西亞の留が安いとかいふやうなことに比較すれば獨逸の馬克はさう悲觀したものではない。さういふやうないろ／＼な條件があつて、實際に獨逸の回復の曙光といふものが文見て居ります。

大變話が長くなりましたが、國民的の資質が良く、

にライオンといふ所があつて、離宮がある。其所に五重の塔が建つて居る。外國に行つて五重塔を見るときいふことは何となく心を喰らうやうなものであります。ちよつと行つて見たいと思つて参りました。おら／＼参りまして、ちよつと踏を聞くと大勢出て來てあつちに行けこつちに行け、と云はれる。彼所では佛蘭西語を使ふのであります。何が何を言ふか解らぬのであります。非常に親切であります。解らぬ顔をして居ると、自動車のある所に來て、斯ういふ所に送つて呉れると云つて頼んで呉れるやうな譯で、甚だ難有迷惑に感ずる位に親切な取扱ひを受けます。それから獨逸を旅行中に汽車の中で大きな袍を網棚の上に乗せて置いて、汽車を降る時に網の上のものを卸さうと思つたが、其下に獨逸人が腰を掛けて居るから御免なさいと言つて取るうとする。獨逸人が自分で取つて私に渡して呉れる。それから瑞西のベルンで友人を訪れるのに家からぬので小学校の子供に聞いたが、已も知らぬが聞いて來てやらうと云ふので、其所を聞き廻つて私をつれて行つてくれると云ふ次第で非常に親切に取扱つて呉れたのであります。

外國人といふ者は國家とか、團體といふ立場に立つて交渉するといふことなか／＼強いとを言ひ、吾々から見れば随分横暴のことをやるやうであります。自分なども外國の態度を憤慨するやうな場合が多い

見たり感じたりしたこと

産業上の努力が十分で、外來の事情が良くなつて緩和されるといふことで獨逸の回復が早くなるといふ結論を致すものであります。

外國人は博愛精神に富む

其次に外國を歩いて居りまして段々感ずることは、外國人の博愛的思想といふことに就て私は感じたのであります。基督教の行はれて居る歐羅巴に於て博愛の觀念が行はれて居るといふことは何も珍しく茲に申上げる必要はないのであります。言葉が外國を旅行致しまして事情は解らない。言葉は不自由である。何かに付けて不自由を感ずるから外國人の温情を得たいといふことが多い。ちよつと路を歩くにも外國人に聞かなければならぬ。宿屋を聞くにも外國人でなければ教えて呉れぬ。さういふ場合に如何にも親切であつて、色の變つた異人種であるといふやうな感じを持つて居らぬ。閉口する程親切に取扱はれることがあります。

一例を申しますと、ブラツセルに行きまして、ブラツセルの郊外

のであります。併ながら個人と個人の關係といふものは非常に博愛的の取扱ひをする。此博愛的の親切の人間の團體があれ程迄の我儘の交渉をするかと思はれる位に、叮嚀の取扱ひをして呉れることを意外に思ひましたが、さて日本人はどうかと思ふのであります。

日本人の居る所に外國人でも來ればさう／＼見て變な毛膚だといふやうな風で、立つて居つて困つて居つても席も譲らぬ。

如何にも外國人の旅行者杯が日本に來て不愉快に感ずるだらうと思ふ。斯ういふことは餘程詰らぬことではあります。日本が國際的に地位を獲得する實際的に地位を向上するといふ今日に於て餘程考へなければならぬと思ふのであります。

司獄官と博愛觀念

何人も其博愛的の精神を養はなければならぬのであります。特に此司獄の職に従事される方が動もすれば職務の性質上嚴格に流れ易く、窮屈になるといふことは已むを得ぬことと思ひます。嚴格にされ

る結果自分では不知不識の間に窮屈になる。随て取扱ひが素人から見れば酷に失するやうなことになる。はしなないかと思ふ。博愛的精神といふことは特に此司獄の職に従事して居る者は考へなければならぬと思ひます。最近私が新聞を見た所が

◇蹴倒し看守

といふ記事が出て居つた。

何が書いてあるかと思つて讀んで見た所が、朝鮮人が監獄に遣入つて居つた。或る看守の人が夜間朝鮮人の拘禁されて居る部屋に遣入つて行つて、何か二言三言云つた時に、朝鮮人が生意氣の態度をしたといふので横面を殴つた。さうして蹴倒したといふことが書いてあつた。さういふことは無論無いであらうと思ふが、さういふ記事が書いてあつたから、さういふ感をも深ふしたのであります。さういふ點に就ては西洋人の博愛的思想といふものを多少眞似ても宜くはないか、必ずしも歐羅巴人が一から十迄偉いとは申しませぬが、歐羅巴人の長所として日本人の取つて以て參考に供することにしたならば、之を取つても日本の決して國辱ではないと思ふ。

此博愛的思想といふことに就ては餘程興味のある

ことと感じたのは、外國に行つて

其所に何所かの娼がやつて来て、鳩の澤山寄つて愉快に豆を食つて遊んで居る所に飛込んでパツと立たせて愉快がつて居る。

斯の如く此等の虫類動物等を虐待するといふやうな思想が原因を成して總ての方面に影響するのではないか、所謂習性となるか、三ツ子の根性百迄といふ言葉の通りに、小さい時から虐待するといふやうな觀念が長じて残酷のこをするやうになるのではないか。外國にも残酷な犯罪はありますが、是はまあ例外である例外を以て事を論ずることは止めなければならぬ。

◇喧嘩の熱い外國

所が日本ではちよつと二言三言言葉を交えると喧嘩になる。正月に外に出れば二組や三組の喧嘩を見ないことはない。

大道を歩くと何所かで喧嘩をして居る。檢察に従事する人の知るか如く傷害罪といふやうな罪が多い、是が外國ではない。人の居る所で大きな喧嘩をするといふやうなことはない。喧嘩をすれば損だから、責任を負はなければならぬ。損害賠償の責任を負ふのは厭や見たり感じたりしたこと

◇子供が動物を虐待しない

といふ事實であります。是は外國に御出でになつた方は事新しく申上げる迄もないことではありますが、私が瑞西のベルンに行つて、公園に行つて見た處が、雀が澤山居る。手の上にパンの屑を乗せてやる。手の上に飛んで来て食つて居る。ロンドンのハイドパークに行けば栗鼠が澤山居る。栗鼠が人の肩の所に来てどん／＼つたはつて行く。倫敦のセントゴールのチャーチに澤山の鳩が居りますが、其鳩が人の肩にさまつて居りますが、洵に此大人でも子供でも動物を非常に愛護する。馬に馬車を挽かせても馬を叩かぬ。私が羅馬で馬車に乗つて居ると、パター／＼と音がするのを聞いて、伊太利といふ國は歐羅巴人は似合ぬ不都合な國だと思つて覗いて見ますと、それは打つて居るのではなくして唯だ鞭を振つてピチ／＼と音させて居るだけで打つて居らぬ。音をさせて打つやうに感じさせて働かせて居るのは伊太利は悪いか知らぬが、日本はさうかといふと、馬方さか車力さかといふ者はうんと荷物か積んでさうしてパター／＼尻を叩く、夏などは時々馬が横になつて倒れて居る。子供は蟲を捕つて来て殺す。首もぎり、尾をきぎつて捨て、仕舞ふ、それから私は最近信州の善光寺に詣りましたが、セントゴールのチャーチのやうに豆をやる。鳩が寄つて来る、害をしないといふことを知つて居るから鳩が寄つて来る。鳩を集めて居つた所

だからと云ふの知らぬが、嚴合ひをすれば居るやうなことを見たことは無い、私よりも永く外國に居る人間に聞くと、絶対に無いとは云はぬが、珍しくも此間斯ういふことを見たといふやうな譯で、先づ少いといふやうな様子であります。

斯ういふやうなことは小さい時分から人を愛する自分以外のものを大事にする、詰り博愛的觀念といふものが日本人の教養に於て缺けて居るのではないかと考へる。果してさういふ事實がありとすれば改善する餘地があると考へます。特に此機會に於て司獄の職に従事される方々が嚴格は宜しい、規則を厲行することは決して悪くない。此怠惰なる習慣、横著なる習慣といふやうなものを陶冶し、矯正する爲に嚴格にするのは宜しいが、陶冶するとか、嚴格にするとか、矯正するとかいふやうな立脚地で苟も博愛的精神が無ければ陶冶するとか、矯正するといふ意思が徹底しないと思ふ。私は此點は甚だ横路に這入るやうであります、特に皆様方の一應の御考を願ひたいと思ふのであります。

機械の  
利用

それから餘り長くなりましたが、もう少し話したいのでありますが、此外國に行つてもう一つ感じたのは機械の利用といふことが非常に進んで居るといふことです。成程日本も近來非常に進歩致しまして、

凡ての方面に機械の利用、文明の利器の利用といふことが進んで来て居ります。併し私が外國に行つていろ／＼の方面の姿を見るといふと、日本人の機械利用の觀念といふものが頗る乏しいといふことを嘆かずに居られない。例へば監獄にしまして、ちよつとしてみ

◇高い監獄ならばエレベーター

を使ふとか、乾燥するには乾燥器を使ふとか總て機械力を以てやつて居る。工場に於ても機械を使つて大規模の設備をして居るといふやうな譯で、普通の人間でも成るべく此機械を利用して成るべく人の手を省くといふことになつて居る。

現に巨米河加等では洗濯をするにも洗濯器で、ペンを押せば回轉

動力工場などに行つてもパロメーターがある。日本の動力工場にはパロメーターがあるといふことはどうも餘り無いのでありますが、向てはパロメーターを壁に賣つて居る。日本ではパロメーターを賣つて居る家は澤山はない。又パロメーターを使つて天候を豫測しやうといふやうな觀念は餘り無い、是はどうも小さい時から私は機械を利用しやうといふやうな觀念が乏しい爲ではないかと思ふ。

◇日本の飛行機は澤山落ちる

日本の飛行機位墜ちる飛行機はないのであります。が、歐羅巴でも絶対に墜ちないとは申しませぬが、先づ以て現在では安全率が高いものと考へられて居る。私が歐羅巴に居る間に巴里からワルシャヤ迄九時間で飛んで居る。倫敦と巴里の間は三時間で飛んで居る。それから巴里とストラスブルグの間を飛行機が飛んで居ります。それから大飛行船のやうなものゝを亞米利加が拵へてアトランチックを飛行機で渡らうといふ計畫ださうであります。兎に角さういふやうな譯であります、外國の飛行機は安全の域に達して居る。

さうして普通の旅客が安心して乗つて居る。私の知つて居る日本見たり感じたりした。こゝ

して皆綺麗になる。絨織の上を掃除するにしても擦るやうな機械があります。掃きも早く塵の取れるやうな設備をして居るといふやうな譯で、總ての方面で機械の利用といふことを考へて居る。

機械の利用といふことは便利であつて、機械を利用しなければ不都合である。日本の如き女中などは機械を使へば人を省るけのに、機械の利用を眞剣に考へない。資力の無いといふやうなこともありませんが、是は主にも機械の利用といふ觀念が乏しいといふことに起因すると思ふ。是は一は子供の教育の方法が悪いのではないかと私は考へる。それを思つたのは、矢張り瑞西のベルンでありましたが、辻の角の所に氣壓の關係を紙で現はすものとか寒暖計といふやうなものが裝置してあります。

學校に行く途中に寄つてパロメーターが上つたさか、下つたさか今日の温度はどうか、風の方向はさうだといふやうな機械に依つていろ／＼の知識を得るやうなことがしてありますのを見て感心を致しました。日本人は機械をどうするといふやうなことになるさうに知識が乏しい。一般にさういふことを考へない、況んやパロメーターをどうするといふやうなことは日本人は考へて居ない。伯林の

人も倫敦から巴里に飛行機に乗つて来た。餘り危険視して居らぬ。是は汽車でも船でも覆ることがあるのでありますから、有らゆる交通機關が絶対に安全といふことは云へないのであります。汽車、汽船と同じにはならぬのでありませうが、それに近い程の安全率になつて居る。日本では満足に行けば大成功ださ云ふ、失敗するのが當り前ださ云ふやうに云ふ。日本の氣流が悪いといふことも一の理由でありませうが、機械の検査が周密を缺いて居るといふことが原因の一になつて居るではないか、是が有力の原因だといふやうに考へられる。

斯の如きことは機械の取扱ひ、機械を取扱ふといふ觀念に於て先天的に乏しいのではないかといふことを考へる。兎も角も

◇文明の進歩は機械の進歩である

思想の進歩とか、美術の進歩とか、形而上の進歩といふことは實は遅々たるものであらうと思ふ。斯ういふもので文明の進歩といふことは測ることは出来ぬ。羅馬には紀元前の彫刻とか、建物とかいふやうなものがありますが、二千年経ち三千年経つた今日の建築物、彫刻物、或は美術工藝品に比較して非常

見た日感じたりしたこと

に優れたものが澤山あります。それで昔の文明が非常に進歩して居ることを驚くと共に、其方面の文明の進歩の遅いことを驚いたのであります。

美術、思想の方の進歩といふやうなことは餘り標準にならぬ。佛教思想が數千年前にあつた。埃及で紀元前何十年前にスフィンクスといふものが出来たことが、ピラミッドが出来たことといふやうなことはありますが、それ等の美術とか、思想の方の進歩といふものは太して驚くことはない。

文明の進歩は機械の進歩と思ふ。其機械の進歩を以て文明の測度にするといふ時に日本人が機械の利用が下手だといふことは、是は少くとも文明人として社會に伍して行く上に不利益を感ずるのみならず日本が益々文明の上に貢献をして發達して行かうといふ上に到底落伍者となるを免れぬといふことになりはしないかと思ふ。

成程法律の方面とか、文藝の方面に於ては必ずしも日本が歐羅巴に劣つて居ることは考へない、況や日本の形而上の學問に於ては今日に於ては外國の學問を參考には供しますが、數年、數十年前のやうに發展する時期ではないといふことを確信致しますが、機械の方面に

路面を掘つて軌道を敷けばよいのであるがそれが出來ない。何でもないことであるがそれが出來ない。是は矢張り機械的の事業、機械的の仕事を重大視する億劫視するといふやうなことが一の原因として潜んで居りはしないかといふことを考へる。私はどうも將來日本の發展といふことに就ては各人が機械的知識を有ち、機械の利用に興味を有ち研究を怠らぬといふことが必要ではないかと考へるのであります

# 小菅監獄滞在中の所感

検事 正 木 亮

私は自由刑の本體は果して何であるかといふ疑を懐いて居るものである。而して自由刑の目的の遂行は果して自由を拘束するのみに止まつて宜敷いものであるか、それとも自由拘束の上に更に威嚇を加ふべきものであるかといふことは私が常に疑ひ常に解き得ざるところである。

若し監獄にあることそれ自體が非常に寂漠と不自由とを與へ且小菅監獄滞在中の所感

於ては尤も専門でない私でありませうから權威を廣さぬが知らぬが、外國に學ぶ所が多いと思ふのであります。此點は餘り考へなければならぬことではないか。

射來日本を背負つて立つ所の少年青年の人にさういふ知識を吹込むといふことは日本の爲に大切ではないかと思ふ。私は話を牽強附會に持つて行くやうでありませうが、

## ◇東京市で道路の問題が喧しい

下水が一向出來ない、成程是はいろ／＼原因がありませう。砂を喰ふ人があつたり、瓦斯を飲んで了ふ人があつたり、いろ／＼の原因からして斯ういふ事業が進まぬといふことは重大の原因でありませうが、機械とか設備の觀念が乏しい爲に、さういふ方面のことを重大視し、大變面倒なことをするのでないやうな觀念が人間の頭を支配して、道路の路面を掘つて、其所に何か木煉瓦でも置いてアスファルトを塗れば宜い話であります。それがなかく面倒である。又地下鐵道でも澤山の金は要りませうが



## 長時間御清聴を瀆しまして相済みませぬでした。

而かも甚だ粗漏の事を申しまして、確實ならざる材料で憶測を申し上げたり、想像を申しましたことは恐縮に堪へませぬ。併ながら何分觀察を遠慮なく申しましたのでありますから、どうか此點を御諒承を願ひます。(終)

機體の極致であるならば行刑の方針は更に百尺竿頭一步を進めなければならぬものとなるのである。

私は此の疑を解き一の資料を得んが爲めに監獄の實驗を爲したるこゝが前後二回に及ぶ其一は東京監獄の拘留監に在りしこと他他の一は小菅監獄に在りしことである。

今先づ小菅監獄に在りしことなきの感想を述べて大方の參考に供し度

いと思ひ記述したるものが即此の一篇である。  
一體本物の入監者が記述する獄中記ですら各人感想を異にして居るのであるから私の此の記も亦極めて獨斷的なところがないとは謂へない。然し私は出来る丈け獨斷的所感は之を避けて事實を本位とするのであるか時に意見を加えることの止むを得ない場合に至ることがある點は特に大方の宥恕を受け御指導を仰ぐ次第である。

### (一) 初日の所感

時は恰も大正十一年一月五日午後六時なので囚人達は既に引上げ後であるから只さへ静かな監内更に静寂を加へて凄慘なる氣に充つ。

有馬典獄は既に典獄室に来て居られて私に幹部諸君を紹介される。食事が済み、談も了つた。私の頭の中には東京迄不便なので時々歸るのに都合が悪いと思ふ心配、本物の囚人達は此うした時には離別の悲みに泣いて居るのであるうとの想像とかごつちやに入交る。

私に定められた部屋に案内される、六疊の間である。恐らく歐米の諸監獄に比較して、景色はないことであろうと信じて居る。只私が今日迄諸國の制度を調査した結果によると、近世の監獄制度には暖房(Heizung)といふ問題が可成り進んで居る様に思はれる。如何にすれば、公平なる暖房設備かなし得られるか、如何にすれば暖房と保健との平衡がとれるか、要するに、他國は既に暖房と保健(Heizung und Hygiene)の程度に進んで居るのである。諸國の文化を傾注することの好きな我國が何故に建築の形式のみを採用して暖房の點を忘却したのであるうか。近來監獄は威嚇と感化との二大要件に就ても、威嚇する(zu strafen)が先きであるが、感化すること(zu erziehen)が先きであるかとの問題が生じて來たのであるが、少くとも感化といふことが要件となつて居る以上、囚人の身神共に完全を期することを前提としなければならぬ。然らば暖房設備の如きも問題にしなければならぬ筈であるが、今日我國では暖房設置の可否さへも論せられて居ないのである

小菅監獄滞在中の所感

る。入口の障子の上椽から上は幕が張つてある。障子に向つて左手の壁は書棚であるが天井迄届かないので寒風は吹きさらしである。只私の爲めに火鉢が與へられたことは暖房設備なき(ohne Heizung)我監獄制度の下に於て第一に暖房設備論者の列に加えられるのである。夜更けてから戒護室に行く夜勤看守が一人居てストーブにあたつて居る、何時間交替かど聞くと一時間交替だといふ。一時間交替で充分なのかと聞くと僅か一時間位の交替では寝るには短いに起きて居るのには痛らいといつて居る。丁度其時午前零時なので交替看守が巡回から歸つて札をかけて急いで休憩所に行つて次の看守を起した。

此處で合鍵を借りて監房に行く扇形の翼が五棟出て居て其各々に看守が足音を忍んで監房内を覗いて居る。中央看守所には看守部長と看守が火鉢を抱えて監内で 番寒いところは此處だといつてかこつて居る。

監獄の建築は非常に頑丈に非常に壯麗に出來て居る。私は初日の夜特に看守諸君の寒さに苦しめる實情を見て且私の爲めに充てられた部屋が殊に寒かつたので監獄建築と暖房設備の關係とは將來必ず問題にしなければならぬと思つた。

### (二) 看守食堂

小菅監獄には共同自炊の設けがある。小綺麗な食堂が設けてあつて夏場ならば嘸涼しくて氣持ちよさそうに思えるだろうが冬向きではない。然し看守諸君の生活の一助となる以上なくてはならぬ設備と言はなければならぬ。獻立は飯が小形な箱に一杯と

朝	味噌汁	二杯	七	錢
晝		二杯	拾	錢
夕		二杯	拾	錢

殆んど毎日此の獻立で續けられて居た。

「君毎日味噌汁ばかりでは飽きませんか」

とは私が一看守に對する問であつた。看守の生活問題は考慮すべきことである。

私は不十分なる囚人の處遇と共に、看守達の待遇の改善は、是が非でも主張されなければならぬと思ふ。

良司獄官の出づることは私達の毎に祈念して止まないところである。然し私は今日の狀態に於て此れを望む者は惨忍であつて望まるゝ者は出来ない相談だと苦笑するだらうと確信する。

### (三) 獨歩

小菅監獄は階級處遇を行つて居る豊多摩監獄と共に新式の制度を採用して居るのであるが、當監はまた他の監獄とはその處遇方法が違つて居るから簡略に見たまゝ、聞いたまゝを申し述べることにする。

當監では在監期を通じて五期とし更に特別期なるものがある。初期から特別期に至る迄に各々特定の期間が定めてあつて、その期間を経過すれば一期宛進むのである。最後の特券期になつて出獄期に近付いたものは特別監に入れて、半自由制が敷かれて居

進制 (Progressivsystem) も結局は茲に基くのである。

然し私は獨歩に就て謂つた序に階級處遇制を行つて居る諸監獄の司監獄當局に申し度い。階級處遇は鰻上りに階級を進むべきではない、善きものは毎に優先するものである。人が一年かゝつて進級する場合六月で進む善い人もある筈である。若しもところ天の様に押し出して行く階級處遇ならば、その制度は、墮落であるといはなければならぬ。Klassifikationssystem の採用と共に、また典獄も看守長も看守も共に、人を見分ける術の困難なるに驚くであらう。

### (四) 深更の監房内

私は一週間に二度は必ず深更一時になつて監房を覗いて見た。丁度正月の凜風は堪えられない程寒く寒暖計は零下三十度以下つた夜さへあつた。その寒さに囚人達は一枚の敷布団と一枚の掛布団に彼の生命を托して居た。

小菅監獄滞在中の所感

る。此の監區の巡回は三十分に一度宛來るのみである。更に新しい制度として獨歩なるものがある。此れは特別期囚の特權であつて、最近唱導されて來た刑罰の半自由主義の前徴の様に見える。

獨歩とは何であるかといふと、監獄の構内を自由に歩くことが出来るのであつて、腰繩時代から見ると天地の差があるのである。小菅監獄の階級處遇で最も異彩を放つて居るものは右の特別監に看守のつかないことと獨歩とである。

私の寝て居る部屋に獨歩の囚人は早く來て盆栽を置き換へて行く、始めの中は極めて不氣味であつた一日二日と立つにつれて、私は彼等に馴れた。私は彼等が獨歩の上に更に外界への獨歩を得る爲めに總ての慾望總ての感情を抑壓して居ることを認めた時私は切に罰すること (zu strafen) の最大要素は自由拘束それ自體にあるのだと感じた。世界の大勢が出獄期を最後の目的期として彼等に出獄の目盛を造つてやつた例の階級處遇制 (Klassifikationsystem) 異常

殊に哀れなのは獨居房内の囚人である。彼等は種々就寢の方法によつて防寒に努めた。私はよく冬が越せるものだと思つた。

### (五) 獄中の性慾問題

私は滯監中數人の囚人達に彼等が其の若き青春時代を如何に過ごすかと聞いて見た。

其の多くの囚人達は謂つた。

「入監當時は更に性慾の懊惱はありません、私は性慾の懊惱を感じるよりも以上に私の自由を奪はれたことを、犯罪をした動機等を考へますと性慾の懊惱の起る暇がありません。犯罪の動機は雲の様にぼけて參ります。自由を奪はれたことにくらかのあきらめも生じます。そうした時に極端な懊惱が起つて參ります。キリスト様もお釋迦様も少しも手倚る氣になれぬ程惱みます。

實際二十歳の青年で入監した男が最早三十を超へて一角監獄の古株になつて居る囚人が多い。その十

年間彼等は種々の妄想に馳られ之れを若き同囚に求めた。彼等の慰安者は義兄たり義弟たる者の他にはないのである。

教誨師達は何處の監獄でも性慾問題を放れて教誨をしようとして居る。性慾問題と教誨とは全く相乖反して居る様に思つて居る。然し乍ら彼等が性の懊惱を爲しつゝある時、之を離れた教誨をして行くことは、その教誨が無意味に了るのではあるまいか、私には此の性慾問題を解決しないで爲す監獄教誨が非常に便宜的のものであり又儀式的のものである様に思はれる。

### (六) 囚人の夢遊病

囚人の仲間には一種の夢遊病がある。短期囚にも長期囚にも同じ様に見る現象である。殊に長期囚に於ては此の病氣にかゝるものが多い様である。

神經の鈍い比較的教育のないもの、間に行はるゝ病氣だといつて宜敷い。その病氣にかゝつて居る者

顔や聲迄がはつきりと浮んで來るといふ者さへ見出された。彼等の多くは如斯して出獄を夢見て居るのであるが、彼等は其の無罪の宣告によつて晴天白日となることを誇らうとするものではない。要は只拘束なき自由の天地に出づることにあるのである。私には此の現象を名付けて監獄の夢遊病と謂ふ。將來此の現象に對する研究は之を一顧すきべ必要があるのではないかと思ふ。

### (七) 怖もてのする囚人と眞に

#### もてる囚人

監獄の中には怖もてのする囚人と眞にもてる囚人とがある。怖もてのする囚人は懲戒處分を澤山受ける亂暴者である。眞にもてる囚人は學識のあるおとなしい囚人である。亂暴者の囚人は自分の暴力で人を壓するが故に、弱い囚人はよくその男の言ふ事に従ふのである。眞にもてる囚人は彼が役人に氣受けがよいので、他の囚人もその一味に加はることを願

は犯罪當時の事を斷えず追憶して居るのであるが、その追憶の間に自分は決して眞の犯人ではないといふ錯覺を生じて來るのである。訴訟手續を些かでも知つて居る囚人は、その錯覺から來る色々の證據がたしかに自分を無罪にして呉れる様に思はれ、遠からず非常上告が出来るものだといふ自信を持つて來る。彼等は參觀人の何人をも檢事が自分を調べに來るものだぞ考へて、其度に面調を申出るのであるが、若し典獄がその儘にして置くと、彼等は典獄が非常上告を邪魔するのだぞ考へて居る。無學なる囚人達は只自分が眞の犯人でないことを告げ度い爲めに、色々の人に面接し度がつて居るのであるが、前者も後者も自己の無實の罪をロマンチック化して語つて居る。

私は小菅監獄で會つた囚人の中に此種の患者を五六名見出した。彼等の多くは十年も前の犯罪を手に取る様に語るけれども、最近の出來事也自己の感情は極めて漠然たるものである。夢の中に出る證人の

ふのである。私が工場を廻る時おどかしい學問の囚人の附近には、何時も眞面目な囚人が集つて居た。然しこの二つのもて方の中でも眞のもて方が根が深いように見える。夫れ丈け私は行刑の見込が立つ様に思はれて頼母しいと思つた。昔の人が「徳は孤ならず」と言つて居るかその格言は罪の國でも矢張り眞理でちる。若し戒護の任に當る者や教誨の責に當るものか此の眞理を充分に利用するならば、我が國の行刑は更に成功の境に近付づくであらうと思ふ。

私は或る戒護者から囚人がある大人敷い囚人に接近し度がつて、時によると違犯行爲すらやつて近づくこととすることがあると聞いた。私は若しそれが眞實であるとするならば、希くばその違犯行爲の多いことを望むのである。善人に近づきことを罰する法律があるならば、その法律は惡法である。勿論監内の規律は充分に守らなければならぬ。然し乍ら不規律も善に向ふが爲めの行爲に對しては寛大でない

ればならぬと思ふ。

私は子供の時何時も監獄には徳行はないものだと思つた。今私は實見によつて徳行は罪人ですら憧れて居るのであることを知つたのである。こわもてのする囚人を真にもてる囚人の幕下に走らしむことは監獄教誨の最大の目的であり、また理想ではあるまいか。私は教誨師諸君の活眼を庶幾すること深いが爲めに私の感じたまゝを附記する次第である。

### (八)長期囚集合制度の恨み

私は小菅監獄で東京附近に出生地を有するものと遠國に出生地を有するものとに會つて話した。東京附近に出生地のある囚人は、親近の面會を此の上なく慰安に思つて居る。遠國の者は移監を希つて居る。一遠い處の人達はお氣の毒です、私達の様に感めて呉れる人がないのですから」

此れは東京附近出身の囚人の話であつた。

法律を制定するのに環境を忘れてはならないとは生じないであらうか。風土上、習慣上其他の環境と

私は只今述べた集合制に反對する一人である。集合制に賛成する人の言分も理窟の多々あることは勿論認めなければならぬ。又私が持説とする反對論の缺點も多々あるに相異ないが、將來此の制度に對する議論が起されるであらうとは私の豫見である。

### (九)憎まれぬ検事と憎まれる検事

#### る検事

世間に「検事は三代崇られる」といふ下世話がある。兎角世の中に對しては検事は憎まれ役になつて居る様である。私は先きに述べた下世話が何處から發して居るかは知らないが、確かに三代崇られる検事があることは事實に近い。然し検事も一般に考へられる程憎まれ役ばかり勤めて居るものではない。

樂主なる囚人の間に於てすら忘れられない日夜徳を慕はれる検事があることも事實である。

私と或る無期懲役の囚人との會話の中に次の一節

「ルツソー」の言葉である。此環境は法律のみにいふべきではあるまい。行刑に就ては殊に顧みなければならぬ一事である。特に近來免囚保護事業が發達するにつれて、郷土人の免囚に對する理解は日一日に發達して來つゝあるのである。東京に十年二十年の刑を受けて歸り行く浦島太郎は、既に郷土で保護を受けることは困難になつて來るであらう。

又一面囚人の感化は親味の親切に及ぶものはないのである。子を思ふ親心で罪をひるがへす者は一二に止らないのである。親の名譽に改悛し行く青年も一二に止らないのである。而して此等の便宜は其出生地方で刑罰を受けることが一番ではあるまいか。罰し且感化すること (zu strafen und zu erziehen) が行刑の眞髓であるならば何故に長期囚集合制を採用するのであらうか。

若し刑罰が公平でならねばならないものならば東京出生の囚人が東京で刑を受けるのと大坂出生の囚人が東京で刑を受けるのとの間には執行に不公平がある。話の中の検事は慕はれて居る検事だから特に名前を掲げることにする。

囚「乙骨検事さんは只今何處にお勧めでしようか」

自分「多分東京控訴院だつたと思ふ」

囚「若しお逢ひになることがありましたら私が宜敷といつて居たと仰言つて下さいませんか」

自分「宜敷い、然しお前は乙骨検事に皮肉な傳言をするのではないか」

囚「いや私は心から乙骨検事さんには感謝致して居ります。十年前私は乙骨検事さんに死刑を求刑せられました。然し私は検事さんをどうしても恨むことは出来ないのです。乙骨検事は取調はかなり鋭いと思ひましたが、内輪では色々私をなぐさめて呉れました。役目の上で鋭い乙骨検事は個人としては温か味を充分かけて呉られました。十年後の今日求刑に對する恨みは忘れても個人としての情けは忘れることが出来ません」

私は乙骨検事に親しく御會ひしたことがないので

小菅監獄滞在中の所感

如何なる御人格であらせらるゝか如何なる御性向の方かは知らないのであるが、今申した話によつても關かに役目と温情とを上手につきませて居られる様でゆかしい。

總じて此の種の湯情を加へて調べられる検事は囚人達には例令其刑が長くとも慕はれて居る様である温情の加味が職務の公平を害するならば不祥なることだといはなければならぬが、温情の加味は決して公平を害する如き不祥事の原因となるものではない。

此れに反して囚人の中には検事を子々孫々迄崇つてやると言つて居る者がある。此れは囚人の曲つた心が悪いのだと囚人のみを攻めてはならない。職權の發動するところ毫も假籍するところなく被告人即悪人の考へを以つて調べて行く検事がある。如斯検事に温情のあらう筈がなく、又如斯検事は假令求刑が軽くとも囚人は之を恨む様である私は此の憎まれる檢事と憎まれぬ檢事とがあることを知つて、法律裁

する處を見ても心氣を一轉したのであつた。更に私の部屋に外部から鎖鑰が施こされるならば、もつと苦しんだであらう。時々典獄から御馳走を受けたことがあつた。然もそれは私の不自由を醫すべき薬とはならなかつた。

茲に於て私は強く思つた。短期自由刑、必しも排

判には人間の温情といふことがなくてはならぬ要素だといふ事を知つて私自身も憎まれぬ檢事になり度いと思つた。

### (十)自由刑に對する私の感想

以上述べたところはかの滯監中の感想の斷篇を不秩序に寄せ集めたものであつて、決して以上に盡きるものではないのであるか、又後日申述べることにして最後に私が滯監二十五日間を得た一番大切な感想を陳べ様と思ふ。

私が小菅監獄に滞在中苦しかつたことは場所が不便なので、東京に行くことが出来なかつたことが一つ、毎日同じ人間の顔に巡り合はして居ることが一つ、思ふことが直ちに間に會はぬこと等であつた。恐らく社會で不自由の少い人程そのなげきは多いであらう。

五日も經つとぼんやりして圍から外方に大息をし見て見たい氣分になつて鐵門の側に行つて附近に隱見

斥すべきではないこと、自由刑の本體は、監禁(Einschliessung)自體にあるのではないかと謂ふことを。若し監禁自體が自由刑の本體であるならば、他に刑罰の方法を案出するの必要が少くなつて行くのではあるまいか。此の問題は後日私と同じ經驗を得らるゝ他の人の感想を俟つことをする。(大正一一、五、四)

## 監獄學の研究 (四)

イングランド及びウエールズの監獄狀態

文學士 佐々木 英夫

## 第一章 監獄に於ける苦痛の

### 一般の見解 (下)

目次

味——監獄病傳染の影響——監獄病と兵營——監獄病と船——惡例(監獄は犯罪の大學校)——捕虜——人間の取扱——紳士——惡風

### 二五

餘は前述の頁にあつた所のものに信用を與へない人々は、獄舎熱が爲した荒廢にも驚かないだらうと

獄舎熱——監獄以外の傷害——獄舎病の傳染の影響——監獄の臭  
監獄學の研究



二度も二度も經驗を持つてをる。監獄で審議した所の判事及び處理に參列した所の其等の多くの人々即ち出席した人々はそれで病氣に罹つて而して死んだ。」と云ふことを述べてゐる。

註 Natural History, Expt. 914.

## 二九

一七三〇年四旬齋(譯者曰四旬齋は聖灰日 (Ash-Wednesday) 及び彌野にありしを記念して) の日にタウントン (Taunton) 此の四十日間精進するを云ふ)に於て、イブルチエスター監獄 (Yewlestor Gaol) から此方へつれて來られた二三の囚人が法廷を害毒に染めた。而して大法官ベンヂェリー (Lord chief justice Pargelly) 高等辯護士 (sergeant) サー・シムズ (Sir Sheppard Esq.) 執行官ジョン・エグット (John Egout) 及び其他數百人は監獄病で死んだ。デボンシャイヤ (Devonshire) の小邑なるエックスミレスター (Axminster) に於て一七五五年エクセター監獄 (Exeter Gaol) から放釋せられた一囚人は其の病氣を以て彼の家族を病毒に染

めた。それに依つて家族の二人が死んだ。而して其後其町に於て多くの他のものが死んだ。一七五〇年に倫敦に於て同様な疾病によりて二人の判事、市長、市參事會員一人及び多くの下級人民等多くの人々が斃れたが、あまり能く知れてをることであるから其の詳細を記載する必要はない。

## 三〇

サー・ジョン・プリングル (Sir John Pringle) は「監獄は屢々傳染性の熱病の原因であつた」と云ふことを認める。而して彼はスコットランドに於ける最近の暴動で或聯隊の二百人以上が獄舎熱に傳染したがそれは二三の脱走者が英國の監獄から持來つたものであると云ふことを吾等に報告した。

註 Observations on the Diseases of the Army, P. 296, and 47

## 三一

ポーツマス (Portsmouth) に近きハスラー (Haslar) なる王立病院の醫士、ドクトル・リンド (Dr. Lind) は倫敦の監獄から放釋された所の人が彼等の船の甲板

を持つて來た獄舎熱で病んでをる若干の船員を一病室で余に示した。船は其の時に備へられた。其の紳士は其の著「船員健康論」 (Essay on the Health of

病が國民的關係に甚だ意義あることを示すのには十分であるであらう。

## 三二

Jemen) に於て「陸海軍へ傳染したもとは疑もなく監獄である」と云ふことを主張する。吾等は屢々彼等から直接に其れの輸入品の形跡を探ねる。其れは屢々艦隊の性急な支度で人を死に至らしめる。「最初の英國艦隊が米國へ最後の陸軍を送つた。それによりて二千人以上も失つた。」他の場所では傳染の種子は吾等の艦隊の警備艦から運ばれた——而して其れから起つた所の死亡數は凡ての他の病氣又は他の手段で死んだものを組合したものよりも一層大きかつた。」

註 1 Page 307

11 Page 5

此の不幸についての例を増加することは容易であつた。然し記載された所の其等のものは假令囚人には何等恩恵に浴する所がないとしても察するに監獄

監獄又は放釋された囚人が外部に邪惡を一般に流行したり勸めたりしたことは今や病氣の蕃殖の如く容易に計算することが出来る。屢々「囚人は負債を拂はない」と云ふことが云はれる。囚人は決して道徳を改良しないと云ふことが附加されてもよいと確信する。サー・ジョン・フィールディング (Sir John Fielding) は其著「盜賊防止案」 (Plan for Preventing Robberies) に於て「免囚は彼の仲間の死刑執行后、次の期間まで一般に彼自身の養成する囚人隊の首領となる」——疑もなく彼が監獄で持つて居た仲間に対して手腕で改良したと云ふことを認める。而して可愛想にも犯人は一年又は二年間懲治監に禁錮せられ又は艱難な勞力でもなく、かへつて怠惰又は不正の仲間の中で其の時を送り、又は其の期間地方監獄に送られて一般に絶望になり而してある邪惡の犯行を

— 54 —  
 爲すのに適當になつて出獄する。余は倫敦及び其の附近に於て犯かされた盜賊の半分は囚人の恐るべき會合と彼等を訪問する多くの怠慢な人々によつて監獄で計畫せられたものだ云ふことを肯定することに躊躇しない。之は儘に彼等を矯正し又は感化せざるべからざる此等の犯人に關する吾等の法律の最後の目的に全く反對してをるのである。其の代り、彼等の監禁は矯正すべく計畫した所の其の惡徳を著しく進捗し又は増加した。或るつまらない犯罪の爲めに監禁された多くの青年が全く破滅された。若しも若年の犯罪者の現在及び將來の破滅を結果するこ

とが判事 (magistrates) の願であり目的であつたならば、彼等が能く云つたやうに怠惰と諸罪惡の住所及び習得所である所の吾等の監獄に十分に長く彼等を監禁することよりも一層有効な方法は案出されないのである。(譯者曰、監獄は犯罪の大學なり) (と云ふ俚諺を思ふべきである)

### 三三

此等の不規律、不幸、病氣及び惡徳が善い道念と

自身の國人に示した同様な人道を見ることを願うてをるばかりである。其故に矛盾のない一定の實行は吾等の恩恵が確固不變の原理であることを證明し得る。其故に批評好きの人々も外人の親切な習慣を渡しくない動機に歸する機会を見出さないこともあらう。

### 三四

— 55 —  
 此處では捕虜は重罪犯人でもないし又債務者でもない云はれ得る。而して時として政府は戰爭の終りに彼等の維持費を拂ひ戻した。此の後のことは事實だと私は信ずる。而して前者は異論なく眞實である。吾等は外敵を犯罪者として考へず、一又彼等も吾等を犯罪者とは考へない。吾等は戰闘に慶殺し合ふ、然しそれが濟むと吾等は冷静で且つ慈悲深くなる。吾々は外國の囚人と内國の囚人との事情に於て物質的の相違あることを許す。然し彼等の性質に於ては何も變りはない。即ち債務者及び重罪人並に敵對する外國人も人間である。而して人間は彼等を入

人道との爲めに有名となつた國民の内に於て忍ばれ得やうか、而して何人か此等の原理から柔弱と寛大を以て罪人のやうなものを取扱はうか。余は捕虜を考へる。此等は澤山に食物を持つた。中若干は番をする兵士に分與し又は賣る爲めである。

註。余は今最近の戰爭に就て語り續けてゐる。六人の囚人の日々の手當は次の如くであつた。

九封のパン、四封中の牛肉

壹週に四日の三ポイント(譯者曰辨目の名)の豌豆類。

六クオートの麥酒(ガロンの四分一即ち二ポイント)

六クオートの麥酒(トの樹目にして我六合三クに當る)

金曜日には彼等は牛肉を有しない。然し其の代り一封中のバターを持つ、實際、軍艦の甲板に於ては彼等は不十分な手當であつた。

吾人は屢々彼等の検査の爲めに彼等の定まつた供給を何時までも引つばつて置くのを見た。若干の囚人は彼の散歩する爲めに大きな地積を持つてをる。而して夜分は皆名々の釣床を持つた。余の希望からすれば此等の恩恵のどれでもを捕虜から奪ひ去ることは決して出来ることではない。余は困難の際吾等

間として取扱ふべきである。

註。余は此處で佛國人に好意を表するものだと思はれては困る。

如何に彼等は英國の捕虜を取扱つたか、余は一七五六年に於ける經驗によつて知つてゐる。ホルチユガルへ旅行する爲めに

スポン郵便船の旅客となつた時に佛國の捕獲免許の私船 (譯者曰、P. B. 船) は如何に取扱つたか

の商船を捕獲せる武裝の私有船である

吾等はプレストに着いた前に、私、四、時間以上も一杯の水も

得ず、又殆一輪の飯も得ないので極度の渴に苦んだ。プレスト

の城で、余は藁の上に六晩も寝た。而して其處及び私が次に運

ばれた montrai で、如何に英國人が殘酷に使はれて居たかと

云ふことを見た。二ヶ月間私は Carhaix で宣誓をして放歸さ

れた。私は Brust 及び montrai 及び Duan 英國の囚人と

通信した。其等の町の最後のものに澤山の吾等の船員及び私の

召使が居た。私は彼等が斯かる野蠻人と共に取扱はれたこと、

數百人が死んだこと及び三十六人が一日に Duan で一つの穴

に葬られたこと十分な證據を持つてゐる。私は尙宣書中に英

國へ来た時に、私は病人及び負傷水夫即ち種々の事件を長官に

報告した。それが彼等の注意と感謝を得た。抗議 (Remonstration)

が佛國の朝廷になされた。吾等の水夫は救濟された。而

して以上に記載された三つの監獄中に居つた人々は最初の俘虜

交換船 (Carte blanche) で本國に歸歸された。佛國人と結婚した

愛蘭から来た貧婦人は、*Sir Malpas* の長官に委託して種々の施物を贈られた。即ち *Dunam* に於て凡ての英國の捕虜に一日一ペニを與へたのは其れの一例であつた。これは適當に支拂はれた。而して多くの勇敢にして且つ有望な人の生命を助けた。

恐らく私此の場合に於て苦んだことが不幸な人々に對する私の同情を増した。其の狀態が此の書物の論題である。

(記者曰、the Encyclopedia of social Reform Pp 532-6)

John Howard 参照)

三五

其等の紳士は吾等の四人が苦しむ所の不幸に就て語られた時に、「拒んで、入れないやうに注意せよ」

(Let them take Care to keep out)云ふことを以て彼等自身満足する所の人であるから、恐くは怒れる祈禱者と共に、紳士と遭難者とを區別する所の神様の恩恵の現が適當に見えない。即ち紳士は吾等が「感謝せざるもの及び惡魔にまでも親切である」所の慈悲深い天父を模倣することを要求してをることを記憶しなかつたと云ふことを前置した。彼等は亦人事の有爲轉變を忘れた。凡ての人は不慮の意趣返に罹

り易いものである。而して勝手向きが充分であるところの其等の人々も時には赤貧となるかも知れないし又は債務者及び四人となるかも知れないと云ふことを忘れたのである。

然し演述口調の個所は随分他人が書いたと云ふてもよい。書かれたことの多くは眞實である。然し余は其の記載の下に来るべしと考へられ得る所の有名な著者から數行を轉寫すべくそのまゝにせんことを乞ふのである。四人の不幸な場合を表はしたことの後、彼は此の目的に進むのである。監獄の不幸は彼等の邪惡の半分ではない、彼等は貧乏と不正とが彼等の間に生し得る所の不正を以て滿された。凡ての耻を知らない且つ不身持な暴行にも拘らずそれは不名譽の厚顔、缺乏に就ての憤怒及び絶望に就ての惡意によつて生産せられ得る。監獄に於ては公衆の眼の畏敬は失はれてある。而して法律の力は費されてある。其處には恐はない、其處には赤面もない。卑しいものは卑しいものを激せしめる。無法なもの

三六

無法なものゝを惡む。各人は自己の神經質に反對し得るやうに自己を強固にする。即ち自己が實行し得る所の技術を他人にも實行することを勉める。而して生活狀態の比較によつて同僚の親切を得るのである

註。The Idler, No 387

既に記述した苦情の外に、監獄には種々の惡風がある。而して其は彼等に關係すると、四人の苦痛を重くする所のものである。余は此等を特に尙簡略に列記しよう。(未完)

職員の勤勞輕減の立場から

典獄 寺 崎 勝 治

(一)

囚人取扱の事務を分掌する職員の仕事は、囚人の動作を標準として、決定すべきものである。即ち、服務方法——服務時間は、囚人の動作に伴ふのである。囚人の動作は獄舎の構造に依るからして、此の點に關し、少しく管見を述べやうと思ふ。



職員の勤勞輕減の立場から

(一) 勤務時間は晝勤、夜勤、晝夜勤に依つて相違がある。最も困難なる勤務は早朝四時頃即ち眞夜中の出勤である。筋肉労働者でも精神労働者でも、眞夜中の出勤は良好なる勤務法と云ふことは出来ない。主人が早朝四時に出勤するとせば、家族は三時頃に起床せねばならない。夏の四時は左程困難ではないが、寒いときの四時は何人も至難とするところであらう。故に眞夜中出勤は、斷然廢止するの勤務

法を制定しなければならぬ。併し其の勤務を廢止することが不可能であるとすれば、出来る丈け遅く出勤せしむることに努力せねばならぬ。

(ロ) 晝夜を通して勤務すること——晝夜勤の制度は保健の上でも、執務の確度の上に於ても、良好なる勤務法ではない。

(ハ) 晝勤は朝八時から夕方四時頃の勤務ならば普通の勤務であるけれども、若し十六時間と云ふやうな長時間の勤務となるに於ては、過勞も亦甚しと云はねばならぬ。

(ニ) 夜勤は午後十二時前後の出勤となるに於ては、出勤するものは何等の苦痛もなからうが、家族が主人を送り出してから就寝することになり、睡眠時間に支障を來すのである。

(ホ) 勤務中の休憩時間である。假へば一時間休憩の如きは、緊張の最長限度を標準として、體力強壯なるものにも、體力普通のものにも、共通のもでなければならぬ。

第三 面會所の右方に鐵扉がある。晝夜分房監へ通ずる小門である。其の構内は十字形の二階建監房(三百餘房)と教誨堂がある。絶對的獨居生活を爲さしむべく設備されて居るのである。

第四 夜間獨居監は東西に一字形に建てられた二階建の監房にして、上下併せて二百餘房ある。晝間は工場作業に従事し、夜間獨居するものを拘禁する監房區域である。

第五 雜居囚教誨堂は約八百人を收容するに足る大講堂である。

第六 雜居監房は晝間工場に於て作業に従事し、夜間は多囚と共に就床する處である。光線形に二棟あつて、上下廿四房、定員七百八十四人である。一區三十二人にして、三區を通じて一大監房を爲して居る。其の一區中に一人づゝ格子を以て仕切した寢臺が、一構八臺とし、四構設備されてある。

第七 第一工場、第二工場の階上階下に檢身場がある。それらに繋續して工場があつて、階上階下共六區に分割されて居る。其の兩端には食堂を設けてある。別に嚴治工場と洗濯工場がある。

第八 炊場は蒸氣装置にして、米麥を搗いたり、飯を焚いたり、肉菜を煮たりするのである。

職員の勤務軽減の立場から

以上舉示したる缺點の多い勤務法は惡制にして、缺點の少い勤務法は、乃ち良制と云はねばならぬ。

(三)

職員の勤務と獄舎の構造とは密接の關係を有つて居るから、其の構造を概述するの必要がある。而して囚人取扱が獨居、夜間獨居、雜居を階級的に累進させると否とに依つて、大なる差異がある。便宜上監獄の構造を基準として、勤務法を論ずることを許されたい。

T監獄は、煉瓦塀に圍まれて居る西洋建築物にして、正門は街路から、左に折れた處にある。正門から半丁程のところに「ツゴチック」式の教誨堂のやふな時計臺があつて、兩側から石段を上るやうになつて居る。上つて行くに兩側に事務室がある。而して建物の布置は大體左の如くである。

第一 身柄授受所がある。着物と獄衣とを着換へたり、所持品を調べたり、身體検査をしたり、自分を調べたりする場所である。

第二 其の向側に囚人の面會所がある。面會人の入口と囚人監房とあり獨居房もある。

第十 耕作地の面積も可なり廣大であつて、耕耘に多數の囚人を要するのである。

以上は其の主要なるものを擧げたが、其の他は普通西洋造の獄舎と大同小異であるから記述を省く。

T監獄の職員配置及び動作時間は別表の通りである。

配置表

	第一獨居監	第二獨居監	中央看守所	第一雜居監	第二雜居監	檢査所	監房掃除	第一工場階上
起床時	×	×	×	×	×	×	×	×
閉監時	×	×	×	×	×	×	×	×
自就業	×	×	×	×	×	×	×	×
自夕食	×	×	×	×	×	×	×	×
至龍業	×	×	×	×	×	×	×	×
閉監時	×	×	×	×	×	×	×	×
就寢時	×	×	×	×	×	×	×	×

職員の勤務軽減の立場から

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
類別	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
起床	六、三〇	同	六、〇〇	五、〇〇	同	同	同	同	同	五、三〇	六、〇〇	六、三〇
出房及朝食	七、二〇	同	六、五〇	五、五〇	同	同	同	同	同	六、二〇	六、五〇	七、二〇
就業	七、二〇	同	六、五〇	五、五〇	同	同	同	同	同	六、二〇	六、五〇	七、二〇
午食	至自	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
夕食	五、三〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
罷業	八、二〇	同	同	七、五〇	同	同	七、二〇	六、五〇	七、二〇	八、二〇	同	同
選房	八、四〇	同	同	八、一〇	同	同	七、四〇	七、一〇	七、四〇	八、四〇	同	同
就寝	九、〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
作業時間	十二時間	十二時間	十二時間三十分	十三時間	十三時間	十三時間	十二時間三十分	十二時間	十二時間三十分	十三時間	十二時間三十分	十二時間三十分

職員の勤務軽減の立場から

動作時間表

第一工場階下	第二工場階上	第二工場階下	第三工場	第四工場	耕内掃	橋内掃	便見	各見	表見	小破修繕	派出官舎新工	炊所	病用監	通掛事務	或護掛事務	各掛ノ呼出押送
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
五	三	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備考  
 ×印ハ部長ヲ示ス  
 全休日ニ於ケル看守配置  
 配置個所及人員

第一獨居監 交代員共 四名  
 第一雜居監 同 四名  
 各見張 同 四名  
 炊所 同 二名  
 便捨 同 一名  
 部長三名ハ第一獨居監、第二雜居監、第二獨居監病監炊所及  
 中央看守所ニ分擔ヲ爲スコト  
 一、雜務看守ハ在監者ノ食事教誨書信等ヲ取扱フ。

計	調所及運動	交代員	像備勤務
二×一	二	一	一
五×二	六	一	一
五×一	八	一	〇
四×一	四	一	一
五×二	六	二	一
二×一	二	七	一

平均

十二時間三十分

備考 祝祭日及日曜日全体ノトキハ起床時ヲ三十分繰下ケ、就寝時ヲ一三三十一十二ノ六ヶ月ハ午後七時トシ、四五六七八九ノ六ヶ月ハ午後八時トス

(三)

従來の勤務法は日勤、夜勤、晝夜勤の三別が通例であつた。而して日勤には出勤時間が早過すべるの非難があり、夜勤は晝睡眠して夜働くと云ふ非難がある。晝夜勤は廿四時間「打ち通し」なりとの非難がある。要するに吾々の習慣、社會の正常に逆行して居る點に於て非難があるのみならず、此の勤務法は監獄職員たるを嫌惡する傾向を大ならしむる慮れがあるから、斷然之れを改めねばならぬ。

第一 看守部長 部長は總員十二名にして日勤と夜勤に分けたのである。

(a) 日勤 日勤は六名にして、其の方法、時間、區域は左の如くである。

とし、全休日になつては、一名だけ出勤させ其の他の者を休養させる。

(b) 宿直 宿直は六名にして、其の方法、時間及び區域は左の如くである。

(イ) 擔當區域は(一)中央勤務一名と(二)豫備員一名である。

(ロ) 服務方法は二名づゝ三部に分ち、輪番に勤務する。

(ハ) 服務時間

第一日 起床時に登廳して、閉監時退廳する。即ち晝勤である。

第二日 罷業時(六時五十分又は八時廿分)に登廳して、翌朝八時又は九時に退廳する。即ち夜勤である。

第三日 非番にして、退廳から翌日登廳迄休養させるのである。

(ニ) 全休日に於ける服務は、晝勤者の登廳を朝八時又は九時にして退廳は夜の九時である。夜

職員の勤務軽減の立場から

(イ) 擔當區域は(一)第一獨居監、(二)第一工場階上、(三)第二工場階下、(四)第二工場階上(五)第二工場階下、(六)第三四工場、屋外作業である。

(ロ) 服務方法は二名づゝ三部に分ち輪番である。

(ハ) 服務時間

第一日 起床時(五時又は六時廿分)出勤して、夕食後(五時半)退廳する。

第二日 朝八時又は九時に出勤して、閉監(七時十分又は八時四十分)に退廳する。

第三日 朝八時又は九時に出勤して、夕食後(五時半)に退廳する。

(ニ) 出勤は春夏は午前八時、秋冬は午前九時

勤者の登廳は夜九時である。豫備員の勤務は此の日に限り、第一獨居監である。

第二 看守の勤務 勤務總員百三名にして、(一)日勤者、(二)宿直員、(三)豫備員、(四)教習生である。

(a) 日勤 日勤は三十名にして、服務方法、服務區域、勤務時間は左の如くである。

(イ) 服務區域 區域は別表の通りである。

(ロ) 服務方法 方法は十名づゝ三部分に分けて輪番勤務するのである。

(ハ) 服務時間 時間は第一日、第二日、第三日とも部長と同一である。

(ニ) 休日 勤務は第一日に該當せるものゝみ勤務し、其の他の者を休養させるのである。

(b) 宿直 宿直は六十三名。

(イ) 服務方法 方法は二十一名づゝ三部に於て輪番勤務する。第二日夜勤者は遅出の日勤者と交代して引継きを了したる後ら囚人の運動を指

職員勤務軽減の立場から

揮監督し、監房検査を完了したる上話廳するの  
である。

(ロ) 服務時間

第一日 晝勤にして起床時に登廳し、閉廳後退  
廳する。

第二日 夜勤にして、

(一) 半數は午後三時三十分に登廳し、翌日午前  
九時三十分又は十時三十分退廳する。

(二) 半數は罷業時に登廳し、翌日午前九時又は  
十時三十分退廳する。

第三日 非番、退廳から翌日登廳まで休養させ  
る。

(ハ) 休日の勤務、晝勤者の登廳は午前九時に  
して、退廳は午後九時である。夜勤者の出勤は  
午後九時である。

(エ) 豫備員は十五名にして、缺員、缺勤等のため  
服務すること能はざる場合の補充員である。

(d) 教習生——は一定の勤務時間を指定し、適當

第三 本案は工場勤務者の分掌本務の分量を減す  
る必要がある。其の結果左の施設をしたのである。

(イ) 電話の設備 各工場に各課通する電話がある

(ロ) 部長の常置 従來部長は巡回監督をしたが、  
之れを改めて常置監督と爲し、採點、得點、作業  
當擔の事務を分掌して居る。其の結果看守の分擔  
事務は減少したのである。

(ハ) 雑務分擔看守は食事、教誨、信書等を取扱ふ  
から、自然工場勤務者の事務を助けることになる。

第四 本案は三日間を連結して一勤務としたか  
ら、其間に事故の發生したときは、補充の途を開か  
ねばならぬ。而して其の補充は非番者をして勤務に  
就かしむることもあるが、補充順序を豫定して其の  
職員を充てることもある。補充の限度は非番者全部  
即ち二十一名を以て最大限度とするのである。非番  
者をして補充勤務に服させても、第一日と第二日と  
の間に自宅休憩の時間充分であるからして、全然休  
養を奪ふことはない。

職員勤務軽減の立場から

の事務に服させるのである。

(四)

以上は吾人の提唱せむとする勤務法の大體である  
其の特色は概要左の如くである。

第一 本案は警戒の必要ある場合、即ち出戻、

還房、運動、入浴、夜間工場就業の隣に職員を増加  
するため出勤時間に手加減をしたり、勤務場所の轉  
換したのである。

(イ) 運動、檢房 非番者の退廳を引留めて、運動、  
檢房勤務に充てるのである。

(ロ) 入浴 宿直員半數を午後三時半に登廳させて  
入浴場の勤務に充てるのである。

(ハ) 見張勤務者は夕食後工場外部の巡警勤務に轉  
じ、炊場勤務者は同所閉鎖後は、中央勤務に轉ず  
る。

第二 本案は宿直員の休暇を非番日の翌日即ち第  
一日に該當する日に之れを與へるのである。

要するに此の勤務法を完全なりと認むるものでは  
ないが、一つの特色ある勤務法であることだけは斷  
言出来る。吾人は詳細なる記述を避ける爲め、不明  
瞭な點もあるであらうが、大綱だけは明にした積り  
である。

(完)

松井事務官の渡歐

萬國監獄會議へ出席の爲

松井司法審務官は官命に依り來六月初旬西首府ベルンに  
於て開かる、萬國監獄會議に我日本政府代表員として出席せ  
らるゝこと、内定せる由、吾人は我監獄界の爲め尙又本協  
會の理事者として同氏の渡歐を深く祝福せざるを得ず、尙氏  
は會議後に歐米各國の監獄制度並に免囚保護事業を觀察し來  
春歸朝の豫定なる由我監獄界並に保護事業界に必ずや偉大な  
刷新と新清なる施設を試みらるゝことは勿論情氣に傾きつ  
ゝある斯界に一新紀元を劃せらるゝなるべし、茲に謹て氏の  
光榮なる前途を祝福し併て其長途の行程に對し偏に其御健康  
を祈る

# 心理學的基調の監獄管理

— 米國二三監獄の實情 — (四)

見 十 生 譯

◇人間の節用 と云ふことは凡そ官廳の眞價を評する上に於ての根本的考察である。惡を遷して善に。頑迷を解いて融和に。非社會的より社會的に人間を改造せんとする監獄の如き特に然りである。刑罰關係の官廳に對する彼之の吟味は只其の處遇方法が如何になつて居るか云ふ。一點を究むるに盡きて居る。

以上彼是と私の書いたところは一半の觀察でつて全般に亘るものではない。若し眞に現在行刑の全幅を通覽せんと欲するならば須らく他の一半を顧る必要がある。それは監獄作業と云ふ一面である。

不斷多忙に體を使ひ時の經つのも知らんと云ふ風

## 出監者との對話

老 龜 生

子「どうかれ、出監後は勉強して居るか」

出監者「難有ふいませ、お陸で疲れも出すに勉強して居ります、併し教誨師さん、在監中に考へておいた通りに中はやりきれません、禁酒にせよあれ程貴君に盟つておきました、出た日に一寸破りました、何しろ皆で勤めるものですから、人情として孟を持たぬといふわけには参りませんが、今日文けと思つて一孟やりました、以後は嚴重に守りますから御安下さい」

子「意志の弱いのば、幾ら教へても駄目である、併し以後禁酒が嚴守されさへすれば結構な事である」

出「イヤ何日ぞやの播州の薬屋の主人が、大酒の爲めに妻を泣かせ子を泣かせ、終に大阪で開業して居る長男の醫學士を自殺させたといふ悲惨なお話は、全監のもの泣いて禁酒を

心理學的基調の監獄管理

に立働くことは人生をして何か知らん現實と云ふものと交渉あるかの如き感と與ふると同時に一面には身體及び肢指の訓練ともなることである。然るに是の單なる人體組織上の要求が監獄の實狀を知らぬ人々には殆ど想像も及ばぬ程の廣い範圍に於て囚人に充たされてないのである。敢て言ふが亞米利加に於ける囚人の三分の一は作業を課せられて居らぬ。或る監獄では全囚就業して居るかと思ふと他の監獄では全然作業を課さないし第三の監獄では一部しか作業に就かして居らんと云ふ状態である。典獄と云ふ男は嫌にケンケンした理窟家で其癖無學な人格の下劣な人間である。身體だけは丈夫だ。下唇の硬

ばつた能く物を喋るとき頸を上齒に込み着ける癖があつて何か語調を強めて話するときは卓を強く叩き其都度相手の顔を覗き込み「どうだ乃公の意見に賛成か」と云つた調子で乗りかゝり若も對者の顔に少しでも怪顔相が見へるときは何回でも繰り返して喋る男である。そして口癖に「吾輩の話は率直なものだよ」と云ふことを附け加へる。

◇最初彼に會つたのは夕刻であつた。典獄は廊間の搖椅子(安値な馬車用の「クワシヨン」付きの)に倚りかゝつて純白な服装で上衣の「ボケット」に紺の「ハンカチーフ」を覗かせ政治家氣取りに太い葉巻を斜に啣へて收まつて居つた。頭は圓い方で剃り立ての顔が滑かに輝つて居る。對座して居つて餘り好感を覺へない。囚人の事など段々話し合つたが憎惡の念がそろ／＼頭に込み込んで来る。豚が沐冠して居るのではないかと思はれて仕方ない。如何にも獨斷的な男だ。

「吾輩は心理學的基調の下に是の監獄を管理して居るんだがね、若し所望とあらば吾輩の心理學を一席辯じまじやうか。萬事が心理學的に出来て居るんです」と云つた。自分は終日自働車で駆け廻つて可なり疲れても居るし又先生の行刑振りを拜見してから御高説拜聴も一層妙ならんと思ひ其晚御宣託を蒙むることは御免を被つた。

「そうですか、兎に角萬事が心理學的の寸法から割り出されて居ると云

置ひましたからな、私共も決して再び酒で失敗はすまいと考へて居ります」

予「ア、話でそんなに感じたかな、元來在監人の最も多く感じる教誨はどんな種類のものかあるか、在監中聞いた教誨に就て少し話して聞かせないか」

出「お尋れになれば話させよう、マア在監人の感動する教誨は理屈ではなくて例話ですな、それも昔話やよその國の話などは駄目です、我々は現實の生活に參考となる話でなくては嬉しくありません、此意味に於て新聞などに似た事實で、在監人の教訓となるやうな話をむて下さるゝ大變に難有く感じます」

予「如何にも尤もだ、併し例話にも死んで居る例話と、生きて居る例話があるので、新しい話でも死んだのがあり、古い話にでも話きたのがある、一日に新しい話がよいと考へて居らないのだ、それから例話は教誨の精神を一段呑込ましむるための補助であつて、例話そのものが本家ではない、理屈ばかりでは分りの點を例話の補助で分らせるやうにする

ふ事を御含み置き下さい。外に何もありません至極簡單なものです」

と典獄が言つた。其の調子も尋常なもので、成る程代表的監獄だ。但し怠け者の長屋と評する以外に適切な言葉を見出し兼ねる。倦怠院、全く而か言ふより仕方がない。終日何をせすに只「ベンチ」に腰掛けたり蠢々として一所に集つたりして居る徒輩の住んで居る家に過ぎないのだ。而も一日や二日斯うやつて居るんだはない毎週毎年刑期の了るまでこの調子なんだ。大きな空明になつた倉庫の様な建物の中に四百人ばかり囚人が居つた。皆一様に獄衣を纏ひ同じ方向に面して着座して居る。其の周圍に看守が小高い臺の上立つて是等の怠け者を監視して居る。朝食が済むと囚人達は是の怠け部屋に繰り出して來て座り込み晝食のときは食堂に出掛ける。其が済むと亦歸つて來る。何の事はない囚人達は座る爲めに作らした人間の様なものだ。然しそれでも仕事を與へられず監房に打ち込まれて居るよりは優しである。遮莫、縦し収益的な仕事でないにしても何が爲めになる仕事は就けたらよさそうなものだ。只座らして居るなんぞと云ふ事は何たる無分別だちう。少し物色して見たら自動車や「タイブライター」の修繕物を提供して呉れる篤志家なりと見出すことは別段に難事でもあるまいと思はるゝ。そして全部の囚人と迄は行かんでも

る。また理論論文では乾燥無味で退屈し易いので、例話を入れて興味を持たせて得心させるといふやうなもので、例話本位になること請談師か話家になつて仕舞ふではないか」

出「如何にも尤も、教師さんを話家扱ひにしては相済みませぬが、實際は在監者などの中には話を聞く位の心持で聞いて居るものも多いやうであります、教誨から歸つて、今日の話はカマかつたさか、マツかつたさか批評するものは珍らしくありません、これは在監人ばかりではなく、一般社會でも演説や説教を聞いて、其内容を味ふものもあるが一面には其話術を批評して、藝術家扱ひをするものも澤山あるのでありますから、穴勝ちそれ

で以て教誨の効果を彼此申すわけではありませんが、監獄などの連中殊に累犯者の中にはマメになる話よりも面白い話をも望んで居るもの、方が多いのですから、教師さん、此處は一番開けて下さつて、面白い話の中にマメになる話を含ませて聞かせるといふ御方針は如何でよいませうかな」

一部の囚人に是等の修繕をやらせ器械の事を教へる。只徒らに日脚ばかり眺めさせて置かんでもよさげなものだ。何處の監獄にも佛蘭西語や伊太利語又は西班牙語を知つて居る囚人が居るものだが是等の者からして習い度い希望の囚人に語學を教へさせてもよい。誰の手でも出来る様な仕事を囚人に課する途は手を以て算ふべしである。圖面を劃かしてもよい。小箱の製作も結構だ。器械類を弄らしたり「タイブライター」を練習したり、依つて始めて彼等の手先からコペリ付いた懶怠を取り去ることが出来るんだ。こんな事は物の二晩も考へたらいい其の名案が出るんだが是處の典獄は思索の男でない。是等の問題に就ても何等透徹した真正な自覺を有つて居らないのだ。

「參觀を了へ歸り際に心理學の講話を所望して見た。是れが先生卓を叩き如何にも熱心に曰く、

「君、僕の心理學は常識のことだよ」

一事が萬事で作業ばかりでなく其他の點も皆同様である。亞米利加の監獄界には思索の加へられた跡を見ることが困難だ。若し何かありとせば隅から隅迄診察して、辛く見付けることが出来る位なものである。

◆建築の方面を採つて見てもさうである。亞米利加の監獄は皆一樣

予「それともからう、教誨を聞いても何の事も言ふのか分らぬやうなのがあるかな。」  
 出「大有りであります、言葉が六ヶ敷くて薩ッ張り分らぬのがあります、漢語や新語が無暗に多くてその上教誨の趣意が圓熟して居らず筋の通らぬ教誨と来ては災難でよいいますよ、そのやうな教誨師が演壇に立たれますと皆て面を伏せて舌打ちします。たゞ立派なお話でもその教誨師のお話であると頭から駄目だとして耳に入れないやうであります、先入主になりますからな。」  
 予「私の教誨も六ヶ敷からうな。」  
 出「實際、貴君のお話も六ヶ敷い言葉があります、然し大抵直ぐ註釋を付けて下さるから分ります、それに貴君のは分らないでもお上手ださ皆できめて居ります。」  
 予「これは恐入るな、正直の處を聞かせて呉れないでは困る、お前の聞いた教誨の内一番頭に残つて居る善い教誨は誰のだ。」  
 出「私は三つのお話より知りませんが、教誨師には十二三人にお世話になりました、貴君は

に所謂「オーブン」監獄型と云ふやつに作られて居る。先づ外見から言ふならば石造の高い外塀中に這入ると鼻先の闊へる様な五階建の角張つた建物と来る。其の窓は極めて小さいやつで處に依る人間的格好の抜けることも出来ないのがある。其の上馬鹿に頑丈な格子を嵌めてあるんだ。更に進むと四階建の方形な石造建物を見るのであるが是が即ち監房だ。各翼各階共に澤山な監房があつて構造は皆同一である。監房の配列は階上階下其一樣になつてある。尤も監房の容積は色々異つて居るがそれとても大差はない。舊式監獄——大抵の監獄は舊式であるが——の監房は奥行七尺巾三尺五寸高さ七尺の容積で「シンシン」監獄其他二三の監獄のはもつと小さい。新築監獄の監房はこれは略々稍大きく處によると二倍位な監獄もある。監房は背面合せになつて居る。監房の中は誠に狭いので這入つて見たことのない人には殆ど想像が出来ない。兩手を延ばしたり頭の上で手を振るなどは及びもよまない事であるし三步と跨がない内に足先が壁に突くと云ふ仕末で氣の利いた墓を壁てにした位な容積しかない。それに二六時中眞暗でよく明るくなつても薄暗い程度である。監房には窓がなく外塀に窓を切つてある。然し監房と外塀とは五間から距つて居つて是の窓も大抵は狭いものであるしそれに格子が非常に厚味に出来て居る。日光が房内に

期にして置きますから其積りでお聞き下さい  
 東京のS監獄でTさんの御教誨を聞きました  
 時は初想であつたので、そのせいもありませう  
 うがあれが一番頭に入つたやうであります、  
 出てからも社會の御講話を度々聞きに行きました、Tさんのお話は信仰上のお話のみでありませんが例話などを入れて能く分るやうに聞かせて下さるのと、大變御親切であるのとで忘れられません、教誨はごうしても御親切ですな、前に申しました教誨が分らぬから聞かぬといふのも私は憚りながら御親切が足りないものであらうと思ひます、何でも改心させてやらうといふ御親切があれば六ヶ敷い言葉など並べて居られるものでなからうと思ひます。  
 予「信仰の話は一般の在監人が好むかな、それとも嫌うかな」  
 出「面白お話を一番好むのが、一般在監人の傾向でありますから、信仰のお話でも例話が選入つて、泣いたり笑つたりするのなら好むわけあります、それに就て在監人の聲と

射し込む前に先づ監舎を照らす譯であるが監房の構造は採光に適していない。比較的古い建築の監房は外塀に面して居る部分が壁で他の半面に扉が付いて居る。最も酷い監房になると其の扉は少しの空隙もなくピツチリ閉め切る様に出来て居る。即ち扉の下半は鐵板を用いてあるのである。それで「シンシン」監獄などでは何とさしなればならんぞ云こので鐵板に小孔を明けてあるが上半部には頑丈な窓枠が縦横に網の目の如く張られて監舎に入つて来た光線が隅には差込む位な小さな空隙を存するばかりである。一段と舊式な監房には全然房内に換氣の設備がない。只扉にある僅かばかりの空隙から空氣が流通するのである。近頃の建築には房壁に六吋方の通風筒が縦に通つて居る。古い監房には洗面場の設備がないので「バケツ」を使用して居る。「バケツ」には大抵番號を附し個人専用と云ふ譯であるが常に必ずしも然うであると云ふことが出来ない。入房は午後五時出房は午前六時であるから少くとも十三時間監房に居る譯だ。一體千八百人からの囚人を斯様な状態に置くこと云ふことは何を意味するんだらう。試みに暑い七月の頃の四階に在る監房の夏の夜を想像して見給へ。どれ位空氣が不潔になつて居るか言葉で表はすことが出来ない。加之大抵な監獄では土曜は半日日曜日は全日在房する。若し月曜日が祭日でもあると二日半監獄に

じてこんな事も申して居ります。教師は信仰を得る信仰に力なりといふけれど、それは信仰の効能書であつて信仰そのものではない。信仰の内容を説くに疎にして効能書を並べることが多い、今度教師に面會したら此事を話したいといふのがありました。

予「如何にも尤もである、併し、總集教師といふものはそんなものなのだ、あれは一般的理論的の教誨で廣くして淺いといふ事實は免れない、信仰の話も一般的に信仰の必要な事を説いて、成程信仰は得たいものであるといふ感じを記さしむればそれでよいので、在監者の聲として、何故令一段深く説いて呉れぬかといふまで考へてくれるやうになれば、總集教師さしはそれでいゝ、その上は分派教師さか個人教師さか一段深いものを與へるのである、然し時には總集教師でも深い處を説いて一般に聞かせる事も必要であるから、絶対に効能書し、述べないといふ次第ではない」

出「承つて見れば理由のある事でありませぬ。

今少し失禮ながら踏込んで意見を述べさせていたゞきたいと思ひますが、

予「演説なく言つて御覽」

出「生意氣な事を申すやうではあります、教師といふものは今少し教師其人の個性が發揮せられれば活きて來ないと思ひます、教師は何れの學校から出られるのか知りませぬが恐らく佛敎大學などの御出身が多からうと思ひますが、學校で學んだ型そのまゝが教壇の上に現はれて居るのではないかと思ひます、無論犯人改善の方針さか、宗教上の原理さかといふものは、一定の法則もありませう、然し此一定の法則を其人々々の頭の働きで在監人の上に活かして應用さるゝところがなくてはなるまいと思ふのであります、此點が不十分であるために教師が死んで居ると批評される教師があるのではないかと存じます、教師其人の個性が教壇なり事務なりに發揮されませぬ、油が乗つて活き／＼して参ります」

予「中々鋭いな、如何にも同感である、さうな

居る譯合で如斯基拘禁生活が如何に感受性因強き人達を苦らしめ又如何に彼等の心情を荒さますものであるかと云ふことは何人も想像し得るどころである。夏の暑き獄中に居る。如斯基建築では清浄を保つ譯には參らぬ。假令それが出來ると云ふ見込の下に設計されても駄目である。殊に舊式の監獄に於て然りだ。而も六朝の如きも適當な換氣通風の設備もなく薄暗の裡に一世紀間も経過した監房は南京蟲や其他の惡蟲に依つて占領せられて居る。現に自分の經驗した「ブラツクウエル」島の監獄、木舊式監獄、代表的のものである。如きは全く南京蟲の巢窟となつて居つた。私の入監したときは一房千疋からの南京蟲が居り根氣良く退治し勇敢に奮闘したのであつたが無効に了つた程である。書籍の間に巢を構へ夜分寝て居ると身體の上を匍ひ歩く云ふ始末でホト／＼生の悲哀を感ぜざるを得なかつたのである。斯様な事を書いて自分は敢て典獄を難するものでない只事實を事實として記載したまでである。一般的に見て監獄官吏の頭に衛生觀念が痛々しみ込らで居らん。尤も例外はある。殊に新築監獄に於て例外を認めらるゝ。其の如き監獄に於ては、監獄管理の半面

◇如斯狀況に於ける拘禁生活の眞義は到底認容すべきものでない。

それに就けても自分が最初入監した時の光景が想ひ出さるゝ。自分は小さい黄色に見ゆる場所に這入つた。恰も兩側の壁が引力で以てお互に引き合つてくつ付きはしないかと思はるゝ程壓迫を感じ戸口に躊躇して居つた。見れば半ば黒くなつた電球が監房の隅に吊るされ幅の狭い鐵製の吊床か壁に直角に取り付けられてある。背後の扉がガーンと音して閉ざされたとき自分は場所的に空間的に又行動的にも拘束せられたる感を禁じ得なかつたのであつた。早速立ち戻らうといた犯人を呼び止めた。

「何か用があるのか」

「今晚夜通し是の監房に打ち込んで置く云ふ譯なんですか」と訊ねた。すると先生笑ひながら「なに今に馴れるよ」と言つた。監房に歸つて見ると兩側の壁が段々離れて來た様で心持ち場所も廣くなつた様な氣がする。中に這入るにも戸口に手ざはりせんでもよかつた。黄色な電燈な光線が眼に快適なものではない。今夜は處で明かすんだなど諦めが付く迄三十分以上も時を費やした。狭いチツボケな鐵の寢臺に汚ない二枚の毛布があつた。ぐる／＼巻いて電燈の下に當る壁際に押しやり入監の際携入した本を読み始めた。入監の朝澤山本を持つて來たのであるが皆取り上げてしまつた。何か讀物が欲しい彼之と選り取

「る次は」……「此の意味から申しますると、古い教理を……しく聞かせるところの手腕も、教師の個性から現はれるであらうと思ひます、教誨が古いか、非現代式であるとかいふのは教理としては千古不易の真理であるが、之を現代式に言葉を更新し、例話を實社會の出来事に採り、聞くものなして成程、首肯せしむるの手腕がないから此點に研究されるれば決して困難なものでなからうと存じます、ツマリ古い人形にも新しい衣裳を着せ、現代に順應して聞かせようとするものを聞かせるのですな、イナ是は飛んだ失禮を申上げてすみませぬ」

「吾輩は猫である」より

りするのでない何でもよいから二三冊許して呉れと談判して見たのであるが規則に反するからと言ふて保の者が拒絶した。然し自分の書籍を入念に検閲して其の中から紙表紙の小さい本を取り出し是れならば携入してもよいと言つて呉れた。其の本は「ウイリアムモリス」の書いた「無何有郷消息」である。在監人には宗教的の書籍なら何でも看讀が差許されてある。薄暗い黄色な電燭が頁を照らしたが物の數分に經たぬ内に自分は夢路を辿り「モリス」の書いた詩的な萬物完成の世界其所には監獄もなければ失業者もない樂郷に遊んだのである。突如この樂き夢心地が隣房に居る少年の咽歌に依つて破られた。少年は遂に近頃の新入であつた。彼は如何にも「ヒステリー」的に泣きわめく。おう神よ一體私は何うすればよいんでしよう。どうしたもんでしよう。と泣き叫ぶのであつた。寢臺を飛び降り壁をこつて叩いて言葉を変はして見やうと試みたが更に應へがない。「向自分の方に氣を留める氣配もなく心臓も破れはしまいかと思はる、程丁度子供が母親の傍から無理に引き離された様に泣きぢやくりするのであつた。隣房から何等の應答がないので吊床に這ひ上つて再び夢の國に遊び九時の消燈まで眠り続けた。監房から夜の外界を眺めた。外塙の牆孔からキラキラ輝いてる星が見える。着物を脱ぎもせず毛布を片付けて其儘熟睡

した。夢に子供の頃に過した自由な境遇が現はれて來たのである。

監房にある毛布は實に汚い。自分は決して氣まぐれに斯く言ふのではない。監獄で貸與する毛布の汚ないと言ふこと珍らしいことではないので滅多に洗濯もしなければ消毒もせずに甲から乙へと他人の使用した物を共用するのである。奇麗にしようとか洗濯して見ようなどと云ふ氣は更にないので勿論敷布などのあらう筈がない。事實全く汚ないので動かして見ると塵がポロ／＼出て來るのである。けれども何處の監獄でもそうだと云ふのではないが大抵の監獄の毛布は斯んなものである。下着が個人別になつて居る監獄は少くない。一所くたに洗濯に出して出來上つたやつを誰彼の差別なく配與さるゝのである。それで其の時々の運で或は長過ぎるもの廻つて來るし時にはつんつるてんのやつも當ることがある。又健康體の者が着て居つたのもあれば傳染病患者の着たのも當ると云ふ始末である。監獄によるとこの小

さい監房に二人拘禁する處もある。從て吊床は上下二段になつて一人は上の床に他の一人は下に寝ることになつて居るが斯んな窮屈な監房に拘禁して居りながら時々同房者の健康診斷も行らないことがある。同じ毛布を着たり同じ「ヨップ」を使つて居る者であるのに事實何處の監獄でも囚人の勞作に對し報酬を出して居られるのである。相當な工錢を給與し得る仕組になつて居る監獄も二三あるが實際多分の囚人の得るところは極めて少ないもので大抵は一厘も貰はんと云ふてもよい。其處で與つて居る彼處で遣つていないと考へるまでもないことで紐育では一日に三錢遣つてあるが「カリホルニヤ」と「マサツチユセツツ」デハ一文も與へないと云ふ次第である。其辨囚人は何故もつと作業に熱心であり且野心がないのだらうかと云つて居る。

作業に次で教育と云ふ點に付ても事實凡ての監獄は無關心である。無學者を八學年に分つて教育して居る處もあるが一般に就學因が尠な過ぎる。又教育



# 博言博士

**チレンパ**  
(Chilenna)  
ザレンマに際會するは、二股道に出會して一重盛の進退谷まつた」ところを云ふので、昔から之れで困つた人が大分あるやうだ。論理學では兩頭論法と云つてゐる。

**デパートメントストア**  
(Department store)  
百貨店と譯してゐる、日本では三越、白木屋云つたやうな大百貨店がある。商品を食料品、呉服物等區分して何でもその店へゆけば調へられるやうに出来てゐる店を云ふ。それにこの頃ではこのデパートメントストアは一種の娯樂場の設備をもなし食堂があれば、音楽もある。又一種の催物例へば美術工藝品の展覽會をやつて都會人の鑑賞に便宜を興へるまで共にお客さまを呼び寄せる工夫をしてゐる。又

三越などは東京驛間を専用の大型自動車によつてお客さまを送迎してゐるなど行届いたものである。

**鐵道電化問題**  
電化問題はひびり鐵道だけに限らず、小さくは家庭に於ける電化問題あり、大きくはレーニンの露國産業電化問題あり、今問題の鐵道の電化は現在の如く石炭による汽車を走らせることは、日本に於て豊富な電力の供給の上から見てこれを改造しなければならぬこと、この動力の變更から来る經濟的の利益及保健士の利益、地域上の利益があるから電化は今日の要求である云ふのだ。それに一時間間に一度位の發車では忙しい時勢に適應しないから長距離列車の間にドン／＼電車を走らせる云ふのだ。

**スツリート カア**  
(Street Car)  
電化ついでに都市に於ける立體的交通系統のことを云つてお

かう。都市を走る電車は高架軌道 (Elevated railway) 即ちエスエー路電車 (Street car) と地下鐵道即ちサブウェイの上中下三段になつてゐる。その中スツリートカア即路面電車は道路上を走るもので大抵の都市では既に設けられてゐる。東京では高架と踏面とが出来てゐるし、地下鐵道も既に十年計畫で手をつけてゐる。

**テケツ**  
これは一部の通語であるが活動寫眞の入場券賣の女を云ふ。切符のこまがテケツトであるところから来たんだらう。

**ソビエツト**  
(Soviet)  
ロシアと云ふこと現在の露西亞のこと云ふのであるが、これは澤山のソビエツト(委員會)がつて執政をしてゐるからのことだ。各所に小さいソビエツトがあつて行政をやつて、その頭目として執政委員長レーニンがあるのである。だからソビエツト制度とは會議制度

又は委員會制度と云つた風な革命露國の一種の政治組織と見ればいだらう。

**赤化**  
「赤化」とばやさしく云へば「赤くなる」ことであるから多分醉つばらうことだらうなぞと思つたら飛んだ間違である。赤化したと云ふは警察はヒリッとする。過激化とか勞農化とか云ふ意味に用ひてゐる。

**デザート**  
(Desert) 乾涸  
洋式宴會の時、皿物が出終つてからフィンガーグラス(指を洗ふ皿)が出て汚れた手を洗ひ、次にデザート即ケーキ(菓子)が又紅茶が配られる。此デザートが出てからのことをデザートコースと云ふ。そして普通の場合ではこの時にテリアル、ソーチエ(卓上演説)が始まる。そこは日本の宴會で一二杯廻つたところで御挨拶と来るの違ふ點である。



海外時報

## 米國監獄事情

(續)

辻 生

### (三) 在 監 者

吾々は前節に於て管理者の立場から一ど渡り監獄の現状を観察したのであるが、此處には在監者の方から現監獄法が、將して彼等に對して適應してゐるか否やを確かめんが爲め、二三の實例を擧げて見ることにする。

【A號】彼は窃盜再犯四年六月以上九年六月とい

米國監獄事情

ふ重罪犯である。其初犯は同じく窃盜三年以下の刑で、一年六月をエルマイラ少年監に送り、最近假出獄を許されたのである。併しこの初犯といふのは法律上の所謂初犯で、彼は其の以前既に事實上立派な前科者であつた。未だ九歳の幼時より鐵道法違反であるとか、小窃盜等の爲逮捕せられ、幾度か法廷に立ち、かなり長年月を工業感化學校養育院等に送つたことがあるのである——今度の刑で入監するを彼

は型の如く普通の體格検査を終え、記録に對する質問に答へ長さ七呎巾三呎五吋高さ七呎の監房に收容せられた。そして翌朝彼は刷毛工場に指定せられたのである。看守長は刷毛工場に一人の缺員があることを知つて、彼を其所へ割當てたのである。彼が入監時に陳述した職業上の記録の如きは、一固より顧みられなかつたのである。彼の刷毛工場に於ける仕事は穴明作業であつたが、彼の明ける穴は各れも不規則で段だらに成つてゐた。

次の月曜日の朝彼は監獄内の庭園で曾て養育院で知り合つた某が彼と殆ど同様の犯罪で二年六月以下といふ短期で入監してゐることを發見したので、忽ち彼の心を暗くした。彼は決して社會を愛し、社會の爲めに働くといふ社會的人物ではない。従て彼の考へは斯様な事實に遭遇して寧ろ益々反社會的となり行くであらうと思はれる。俺れは州の爲めに入監してゐるので、刷毛の穴を明けて一片半の日給を貰ふのだ。七呎に三呎の部屋に寢て丸で此鶏の様に集

くひ犬の様な食物を食し入浴に際してさへ四方から追ひ立てられるのだ。罰當れ、州の奴、刷毛の奴、これが彼の意見であり又實に監獄問題の最も重要な出發點である。其後間もなく彼は編物工場に移された。彼の仕事は靴下を編む三箇のミシンを操することであつた。若し絲が切れれば針に絲を著け、針が喰著き合へば之を直すのである。勿論監獄外の編物工場で働くとしたら、八箇位のミシンを扱はねばならぬのであるが、彼にとつてはこれで中々過重なる仕事であつた。彼は益々「州の爲めに金を儲けてやるのである」「州の爲めに自分は作られてゐるのだ」といふ様な反抗的な考へが植付けられて行き、彼の不平な益大きくなつて行つた。

所で監獄は次第に人員に過剰を來たしたので他の數十名と共に彼の故郷の町から數百里も離れてゐる監獄に移された。最早彼の母も彼の情婦も彼に面會に來ることが出来なくなつた。彼は其所では織物工場に回はされた。そして州の病院向きの毛布を織る

古い機械器の前に座ることになつた。彼は毎日職工長の忍耐し切れない程に品物を損じたのであるが、彼は不熟練なのでどうすることも出来ず、洗面をしてゐた。二週間計りして彼はバスケット工場に移された。此所に彼は柳の枝で置物用のバスケットを作ることになつたのである。

以上の如く彼は遂にどの監獄でも自分に適當した作業を見出すことが出来なかつた。否寧ろ容易に仕事を仕様としなかつたのである。そののみならず彼は監獄の採れる總ての教養的努力に對して絶對に避けんとしてゐたので、夜學に出ることを嫌つたのである。監獄醫の精神考査によると、彼は矢張り一種の精神的缺陷者であつたのである。是等の者に對しては、どうしても反復的作業に對し、監督制御するか或は又彼を鼓舞奨励すべき親切なる友人の影響を必要とするのである。

〔B號〕彼は初犯で或監獄から最近三月前に假出獄を許されたのである。入監後の職業票は印刷業見

習と記入されてゐたが、彼は入監すると直ちに監獄備夫に指定された。併ながら彼は一心に其仕事に勵げんだので、看守達の信用を得、間もなく彼の希望は容れられて印刷工場に移された。其所で彼は職業上の經驗に基いて、益々仕事に勉勵し職業的訓練と新知識を得る機會を作ることが出来た。彼の學校記録は善良であつた。在監中はこれぞといふ缺點は見出せなかつた。法律や社會の慣習に對する違背は全く彼の熱情性に基くのである。そして其れは飲酒により一層強められるのであることが分かつた。彼はかくて監獄に良記録を残して放免せらるることになつた。放免の際には監獄及在監者に關し特に興味を有する或有志家に引取られ、其人の手で労働組合の役員に引合はされた。そして彼は直ち組合員となり、一週四十三弗を得るが、なつた。彼の成績は尚ほ引續き良好であることである。

〔C號〕彼は二十一歳の青年である或夜仲間と四人連れて或街を通りかゝつてゐた。其時或一人が出

し抜けに「一ツこの手押車に乗つてやらうぢやないか」と叫んだ。そして此車は翌朝田舎の道端に乗り捨て、顔覆されてゐた。彼は間もなく逮捕されて普通アメリカのシベリアと云ひならされてゐる「クラントン」長期監に送られた。これは犯行地の最寄監獄に送らるゝといふ傳統に基いて屢を行はるゝのである。

彼は可なりの教育を受けてゐた。彼の家族的環境も普通以上であつた。職業上から見ると彼は電車、自動車、機械等の諸工場を歩いて来てゐた。併し是等熟練を要する仕事の工場には缺員がないので彼は織物工場の如き自働的作業に指定されなければならなかつた。彼は一大決心を爲し模範囚たらしめて此工場に入つたのである。故めの内は一人離れて懸命に働いてゐたが、どうしても誰れかに話かけ或は仲間を得る必要があつた。そして是等の仲間には彼に色々なことを物語つた。彼の右側にある者は常習犯でこれ迄州の三ツの異なる監獄に十九年餘りも暮し

た男であつた。又左側の男は「シンシンダ」監獄から口論の爲めに移された者であつた。前側にある男は小柄口想な而し大法螺吹きであつた。

彼は斯様にして段々彼等仲間では誰が眞の主人公であるかを知る様になつた。又彼は楽な金儲も聞いた。三年にして「儲」といふ様な監獄内の合言葉にも精通した。彼は總ての不平にも耳を傾け彼自身でも亦不平を言ひ出し始めた。併し彼はまた彼等の多くの者の様に出来る丈仕事を省くといふ様なことは知らなかつた。例へば機械を動かさなくしたり破壊して終つて恰かも偶然の出来の様に見せかけたりして、然るに或日彼の取扱つてゐる機械が偶然に損じた。職工長は故意に壊したといふて、を責めた。彼は荒々しい返事をした爲めに獨房に入れられた。そして同時に彼の假出獄は六月間延ばされたのである。其後彼は假出獄を許されて保護司の監督に附され、或工場で相當の地位を得て働くこととなつた。工場仲間では誰も彼が前科者であることを知

る者がなかつた。然るに或目のこと保護司が彼れ、行状視察の爲に彼を其工場に見舞つた。それ以來工場や事務所では疑ひの目を彼に向け始めたので、彼は是所に居た、まれず此町を去り彼方此方ど仕事を漁り歩いたが、前科書の汚名がどこ迄も著き纏ふて思ふ通りに行かなかつた。結局彼は最も樂な道を探つた。そして復た監獄に逆戻りする事になつた。

## 第二 調査の方法及び限界

監獄調査委員會の目的は一九一九年一月州知事の「エ・イ・スミス」氏の教書左の一節によく言ひ表はされてゐる。「吾々の監獄管理及犯罪人處置に就ては今や漸く前途の光明を認め得る様になつたが、併ながら吾々の監獄と監獄當事者とは今尙峻嚴なる訓練に囚はれて回復を期待せらるべき人間性を益々墮落せしめ且破壊せんとしつゝあるのである。」又「餘は州の

監獄改良に就ては徹底的な調査の遂行を期し從て之が爲に從來の立法にして改正を要すべきものあらば之が改正に躊躇せぬのである。」

知事スミス氏と監獄局長官ラテイガン氏の監督の下に監獄調査委員會は過去一ケ年に互に監獄制度の調査を行つた。委員等は先づ監獄局の下にある各監獄或は病院即ち「オートマン」、「シンシンダ」、「クラントン」、「グレートメド」、「オートマン」女監、「ヴァラレイ」、「マテワン」及び「ダネモラ」の各州立病院を訪問し數ヶ月に亙つて周密なる研究を續けたのである。而してこれには固より各専門の技術者であるとか委員會の屬僚等も加つたのである。尙本調査は知事の要求に因り「エルマイラ」州立感化院「ナバノツチ」東部感化院「ベッドフォードヒルズ」州立女子感化院及「アルビヨシ」西郡女子貧民集容所等にも及んだのである。自由なる社會ではより遙かに緩慢なる形に現はるゝ問題も監獄に於ては極めて誇張された形で發現す

ることは顯著なる事實である。例は監獄内の精神病者の數は監獄人口の二十八パーセント餘の多數に上り、それに精神虛弱者も亦看過すべからざる數に上るので、是等兩者の取扱は監獄制度中最注意を要する處のものとなつて居るのである。又教育問題の如きも、在監者の大半が無教育若くは低度の教育を有するに過ぎざるの状況であるから、是又非常に困難となるのである。其他監獄生産等勞働賃銀等に付ても、監獄特有の拘禁であるとか、強制であるとかいふ事情を伴ふので、困難にして錯綜せる問題を含むことなるのである。斯様な状態であるからして、委員會はさうして是等の各種の方面に於ける特別の經驗若くは知識を有する人々の助力を必要とするのである。

併ながら斯かる補助者を見出すに先立て委員會は先づ紐育州に於ける監獄に關する公私の出版物を蒐集するの必要を感じた。監獄問題に關する過去の經驗と提案とを知ることは現在の監獄を理解し、將來

の監獄問題を解決する上に於て是非とも必要なことであるからである。而して此目的の爲に過去十五年間に亘つて是等の出版物中に見出されたる總ての提案を輯録することにしたのである。此豫備の仕事に於ては監獄及監獄勞働國民委員會の記録及紐育州監獄協會の記録が特に吾々の調査を助くる所が多かつたのである。此等も此の調査に關するものである。此委員會の普通職僚の指導に付ては彼の監獄改良研究者としての有名な「ゼ・デ・シ・ア・ト・ス」氏主として其任に當り、一般調査に付ては前教育局職業教育部長にして現コロンビア大學に於ける職業教育教授なる「アーサー・デ・ティン博士及前記シ・ア・ト・ス氏の協力に負ふ所が多かつたのである。尙委員會は委員會の顧問「ジョー・ダブリユ、アルデヤニ氏の倦まざる努力と組織的助言とにより爲されたる價值ある奉仕に對し深く感謝の意を表することを茲に一言附加へる。

州及合衆國の勞働機關は監獄問題殊に監獄作業問題に關し長き間親密なる關係を保つてゐた。委員會

の仕事に材料を供給して助力した人々は米國勞働聯盟の秘書「マニング」氏紐育州勞働聯盟會長「ホーランド」氏等である。委員會は監獄内に於ける機械裝置の多くが摩滅し且つ時代後れであるといふ事實。其生産か價に於ても量に於ても劣等であるとの事實。其他職業訓練の不徹底であるとか、賃銀制度の不完全であるとかいふ事實を充分知つてゐたのであるが、尙充分に産業施設を調査する爲に委員會は自由産業に従事してゐる人々若くは産業組合の代表者等に對し親しく監獄を訪問し、監獄工場に付き周密なる調査研究を遂げ、之が改良に關する意見を提出すべきことを依頼した。而して是等の實際家は後出監獄工業の全章を完成する爲めに、二等の貴重なる時間の大なる犠牲を惜まなかつたのである。是等の人々は約五十名の多きに達し茲に一々列挙するの遑がない。

農作物の生産も亦監獄制度の運用に於ける重要な一要素である。農業は單に收入の上のみならず教育的目的を達する上に於て最も價值あるものである

委員會は各監附屬の農園の改良計劃の樹立を「コオネル」大學農科教授「アークス」氏に依頼した。

次に販路の問題に付ては紐育市會計局の「デアルス」氏の指導の下に紐育州及大都市の諸機關によりて消費せらるる貨物の種類數量金額等に關する詳細なる統計を作成した。これは後出市場の章に明かである。

受刑者が刑期満了後職業的に直ちに獨立し得る様に訓練することは最も大切なことである。紐育州の監獄内の千五百人に就ての詳細なる研究は其八〇パーセントは何等熟練せる職業の所有者に非ざることを示して居る。委員會は此問題に付ては「コロンビア」大學の職業教育の教授「デイン」博士其他數名の専門家に對して詳細なる研究を囑託した。この點に付ては後出職業的訓練の章に譲ることにする。

次に委員會は現在の「シンシグ」監獄内に新設せらるべき監房をば受刑者の分類拘禁及個別處遇の爲に使用するといふ實際的計劃の實現に付て重大なる任

務を有するのである。而して此問題に付てはシンシ  
ング監獄の精神病醫ビ、グレンク氏等十數名の著名  
なる精神病學者は、特に熱心なる助力を惜まなかつ  
た。

次に在監者の教育問題であるが委員會は彼等の多  
くは英語を解しないといふ事實に驚かされた。そし  
て州は少くも彼等の出獄に際して初等教育程度の教  
育を期待しなければならぬと考へた此問題に付ては  
既述デイン博士及補助者によりて研究された。是等  
には教育事業なる章に詳かにする。

委員會は當監獄内の宗教的事務に關する牧師等の  
重大なる責任を認めた。而して責任ある教會の機關  
により現状の調査を爲さんことを要求し紐育の大僧  
正は其代表者として教父ウキリアム・イ・カッシン師  
を任命し、猶太人聯盟組合では其代表者としてデイ  
ヴィン博士を任命し、紐育の監督教會區内の僧正  
は同じくリーチ博士を任命した。

以上の外委員會は監獄問題に通せる多數の紳士よ  
り、如何なる種類の熱心なる職業をも習得してか  
かつたのである。而して是等の人々の失敗の原因は  
概ね職業的訓練を缺けることにあるのである。

從來監獄には受刑者の精神的並に肉體的の能力を  
検査し或は分類する爲の何等の組織的設備も無かつ  
たのである。而して低能者であるとか重罪犯人であ  
るとかいふ種類の者も普通犯人と同一監獄内に或は  
時として同一工場内に收容されてゐたのである。其  
の工場内に於ける如何なる勤勉も技能の熟練も何  
等の報酬賃銀の増加乃至刑期の短縮を伴はなかつた  
のである。總ての者が一樣に一日一片半の賃銀の支  
給を受けてゐるのである。彼等の生産に應じて報酬  
と懲罰とを與ふる所の信用制度は殆ど名のみである  
のである。

工場機械設備は時代後れで不完全である。それ  
に之が管理監督も行届いてゐない。従て生産品は勢  
ひ低級となり常に販路に困難を感じてゐる。監獄工  
場を訪問した有名な産業組合の一員が監獄工場の状

り有益なる助言と助力とを得たのであるが茲に此氏  
名を列擧するの煩を避ける。

### 第二 監獄工事及生産

監獄工業は主として「オーバン」、「シンシグ」  
「クリントン」、「グレイトメドウ」の四監獄に於て營  
まれてゐる。是等の工場の職能は主として受刑者の  
職業的訓練を目的とし又一面州立の諸機關の需要す  
る貨物を生産することに有るのである。委員會調  
査の目的は受刑者をして出獄後直ちに社會生活に適  
應せしむる爲めに自由産業の採れる方法を監獄工  
業に採り入れることを推擧するにあるのである。出  
獄者に勞働の慣習と獨立心とを與へ且つ職業的智識  
と熟練とを養成して一個の立派なる産業的市民とし  
社會に復歸せしむるといふ根本目的を實現すること  
に就ては從來の監獄工場は不幸にも失敗に了つてゐ  
るのである。州監獄委員會の報告に依れば、受刑者  
の八割六分は事實上の前科者であり且全在監者の八

態を評して「假令熟練なる職工として入營するも直  
ちに怠惰と悠長なる習慣を得其結果彼は何等訓練な  
き職工と化して出監することになる」と云ふてゐる  
のである。

若し訪問者が現今典型的とせられてゐる監獄工場  
に這入つたとしたならば彼は暗黒や朦朧や不快な氣  
圍氣と受刑者の其れに對する無頓着の調子に襲はれ  
るであらう。以前の様に蒼白な顔は餘り見當らない  
が、併し彼等の顔は希望と野心の表情を全然缺いて  
ゐる。或者は凄しい殘忍な目付をし或者は偷視であり  
或者は弱々しく低能想に見えた。彼等の人數は工場  
の大きさに比例してゐない。そして互に邪魔し合つた  
り時々集まつては無駄話しに時を移したりして居て  
勞働や練習に對しては全く希望を持つてゐない。機  
械は捨て置かれ操縦者は、就學、入浴、洗濯、診察  
等の爲に不在であると云つた様な始末で、實に暢氣  
千萬なものである。彼等に彼等の將來に關して尋ね  
るならば「私はチットモ困りやしません、御心配は

米國監獄事情

御無用です。出てさへ行けば何んどでもなりませう」とか「お前さん此所下何も聞くことはないよ、俺達  
は馬鹿馬鹿しい只奉公をしてゐるんです。一體全體  
何の爲に働いてゐるんでしやう」之が彼等の普通の  
答へである。併ながら中には歩み寄つて來て「女房  
小供」の爲に何か頼むたり又ブロークンな英語で、  
「私は働きたいです賃銀さへ下されば」等と話しかけ  
るものも少くないのである。

監獄工業に關する調査をなすもの、目的は監獄工  
場をして眞に受刑の産業的復活の訓練の場所たらし  
むるの方法を提案するにあるのである。既述自由産  
業家及び産業組合の代表者等は此目的の爲に各其專  
門に應じ監獄工場の生産状態を調査し個別的に其觀  
察と結論とを提出した。而して委員會は是等各個の  
報告を綜合して各報告に共通せる左の根本的要求を  
推擧せんとするのである。

一、受刑者分類の爲めとする身體及精神検査。總ての受刑者に對し  
入監時に於て精密なる身體及精神検査を行ふのである。之によ

正當であることは一九一九年の監獄會議に於けるスミス知事  
の演述によく表はれてゐる。入監によりて眞に苦むもの、  
受刑者自身に非ずして實に彼等の家族である。此事實は世  
間では餘り考へ及ばぬ様であるが私が既に立法部に居た時に  
始終見聞して來た處である。犯罪者本人は身から出た錆とし  
て止むを得ぬものさしても何も罪咎もない妻子を缺乏と機械  
に泣かしむるのを將してどうであらうか。せめて彼が監獄に  
居る間妻子の爲めに何事かをしてやるさう必要がなからう  
か。州は是非とも何等かの方法を見出さなければならぬと考  
へるさうなのである。資金制度の改良は如此意味に於ても最  
緊要なものであると謂はなければならぬ。

(b) 受刑者は少へも一年間工場に於て引續き忠實に勞働し且自  
己の生計の費用の全部を收得するに非ざれば假出獄を許可せ  
ざるべし。この提案は最も深く監獄問題に觸れてゐるのであ  
る。彼等が最も希ふものは自由である。一面又生産的作業を  
爲る慣習は彼等に於て養はねばならぬ。最重大なる事柄の  
一つである。かくて自由の希求と勞働の慣習とは相互に影響  
し合つて自然と彼等を訓練することになるのである。

米國監獄事情

りて身體的若くは精神的の缺陷者は普通囚より隔離せられ普通  
囚も亦其經歷刑期才能等に應じ其最も適當なる作業に従事する  
こと、が出来るのである。從來の監獄は全く如此科學的分類方法  
を缺いてゐたので彼等は實に雖然たる拘禁状態に置かれ精神異  
常者も癡癡者も普通者もごた混ぜであつた。それに彼等の多く  
は不熟練職工であるから如此事情の下に彼等に對し性格の陶冶  
であるさか乃至は職業的訓練であるさかに付て好結果を期待し  
或は又生産の質及量の増加を望むことは全く無理な注文であつ  
たのである。此受刑者に對する科學的検査は實に監獄内に於け  
る總ての進歩改善の基礎であり特に作業能率の増進の必要なる  
條件とあらねばならぬのである。

二、勞働、勞働習慣及職業訓練に對する獎勵

(a) 受刑者に對する賃銀は彼等の個人的努力に應じて支給せらる  
べきこと。但し工場の生産能率により制限せらるべきものとす。  
監獄工場の生産力の著しく一般工場に劣るは主として作  
業に對する刺激及獎勵の缺乏に因ることは各自由生産業者及  
産業組合員の代表者の力説してゐる處である。尤も古き購買  
制度の下に於てはかなりの生産率を擧げ得たる場合があつた  
のであるがこれは恐怖と機械の爲めに不自然に彼等を壓迫し  
た結果であつて決して組織的に改善された結果ではなかつた  
のである。現在の一、二片半の賃金は彼等に對し益々銳き反

即ち彼等は拘禁の期間を短縮せむが爲め忠實に働か熱心に工  
夫を廻らし且つ生活を維持し得るに足る生産をなすことに努  
力するのである。而かもかかる努力は彼等の出獄後の生活に  
よりて殆ど計量し得ざる程價值あるものとなるのである。

三、工場監理者に對して適當の報酬を支給せらるべきこと。自由産  
業者等の報告は監獄工場に於て適當なる監督力を確立する爲め  
には、工場職工長に對しより高給を支拂ふの必要あることを力説  
してゐる。實際に於て熟練職工で精腕のあるものは少くも一週  
四十弗の俸給を受けてゐるのである。然るに監獄の職工長は僅  
かに一年千五百弗の俸給である。勿論多くの場合は等の人々は  
番人として忠實な爲めに擧げられたのであつて職業上の智識とか  
受刑者を訓練する能力を有するが爲めに擧げられたものではなかつ  
たのである。生産受刑者の訓練資金の計算即ち一日の勞働時間  
中の受刑者の全監督は實に此職工長の手中にあるのである。職  
工長の地位に對して報酬を増加する事は州が爲し得る最も有利  
なる投資であるさういふことを斷言し得るに信する。若し必要なる  
俸給が工場の監理者に支給はれざるに於ては假令多額の費用  
を投じて現代的の機械装置を爲すも全く無意味であるよき事務  
制度を設定しよき監理者を得るに於ては工場よりする増収を以  
てかかる俸給の支給を爲し得て餘りあるであらう。

四、現代的工場設備をなすこと。若し適當なる器具機械が與へられ



事業功勞者に金

保護救済ニ當リ同二十一年監獄教誨師ヲ命セラル...

東京府荏原郡品川步行新宿 秋庭正道

大正元年恩赦ノ大詔頒發セラル...

岡山縣苦田郡高田村 清田寂榮

夙ニ社會奉仕ノ志望ヲ有セシカ會々大正元年恩赦ノ大詔...

大正元年恩赦ノ大詔喚發セラル...

新潟縣新潟市田中町 堀小太郎

明治三十八年五月新潟縣出獄人保護會ノ取締ヲ委託セラル...

岩手縣盛岡市材木町 宮田重治

免因ノ窮迫ヲ憐ミ時ニ之ニ對シ金品ヲ賑與セルコト...

訓令

司法省 監獄局監甲第五一四號

新潟、福井、金澤、富山、宮城、福島、山形、盛岡、秋田、青森、監獄典獄

大正十一年四月二十六日 司法大臣伯爵 大木達吉

司法省 監獄局監甲第五一四號

札幌、函館、旭川、十勝監獄典獄

大正十一年四月二十六日 司法大臣伯爵 大木達吉

訓令

司法省 監獄局監甲第五一四號

新潟、福井、金澤、富山、宮城、福島、山形、盛岡、秋田、青森、監獄典獄

大正十一年四月二十六日 司法大臣伯爵 大木達吉

司法省 監獄局監甲第五一四號

札幌、函館、旭川、網走、十勝監獄典獄

大正十一年四月二十六日 司法大臣伯爵 大木達吉

通牒

札幌、函館、旭川、網走、十勝監獄ニ拘禁スル兇

大正十一年四月二十六日 司法大臣伯爵 大木達吉

貴監附屬地中概開墾地ハ二百九十五町歩ニ達

能ニ有之不斷凡シ一千人ノ拘禁者ヲ必要ト被



監獄

キ割引證ヲ發行スヘキモノトス  
本部支部ノ關係ノ保護會ニ於ケル取扱亦  
同シ

監獄第五五三號  
大正十年十一月三日

鳥取監獄  
典獄 佐瀬庄三郎

監獄局長山岡萬之助殿

在監人休憩制設定ニ關シ休憩時間ノ  
件伺

本年十月廿八日監甲第八七一號作業時間延長  
ノ御通牒中第二在監者ノ部三標記ノ件ニ關シ  
左記疑義相生シ候ニ付御意見御回示相煩度  
シ

一、休憩時間ハ作業時間外ニ設定スルヲ可ト  
スルヤ然リトモハ作業ノ種類ニ依リ罷業時  
ヲ異ニシ取扱上煩雜ナルノミナラス紀律ノ  
統一ヲ缺クノ嫌アルヲ以テ作業種類ノ何タ  
ルモ同ハス一般ノ休憩時間ヲ設定スルモ差  
支無之哉  
二、若シ休憩時間ハ作業時間ニ通算スルヲ可  
トスルヤ然リトモ各監作業時間區々トナ  
ルノ嫌アルヲ以テ休憩時間ノ範圍ヲ保メ御  
通牒可相成哉

監丙第一六三八號  
大正十年十一月十一日

監獄局長  
典獄 若井光美

在監人休憩制設定ニ關スル件回答  
十一月三日監第五五三號ヲ以テ採記ノ件ニ付  
御申越相成候ノ範圍ハ本年九月監甲第六七七  
號通牒等ヲ參照シ各監獄適宜取計スノ趣旨ニ  
右之候條右ニ御示知相成度候

監獄第五七八號  
大正十一年四月八日

監獄局長山岡萬之助殿  
典獄 若井光美

作業時間ノ件ニ關シ伺

當監ニ於テハ客年作業時間延長後御通牒ニ基  
キ適當ノ休憩時間ヲ與ヘ就業者ノ疲勞防止ニ  
努メ居候處作業時間ノ中間ニ於テスル喫食モ  
休憩時間トシテ作業時間ニ通算セル監獄アル  
ハ中間及候然ルニ喫食時間通算ノ存無ニヨリ  
事實就業時間ニ四十分乃至一時間ノ差異ヲ生  
ス可ク非常ニ付テハ喫食時間ハ休憩ト解釋ス  
ヘキモノナルヲ果シテ然ラハ實際約十二時間  
ノ労働ニ衝シ十三時間ノ課程ヲ課スルノ状態  
ト相成候條至急何分ノ御指示相煩度候也

監丙第六二八號  
大正十一年四月十一日

監獄局長  
典獄 若井光美

在監人休憩制設定ニ關スル件回答  
四月八日監獄發第五七八號ヲ以テ採記ノ件ニ  
付御照會ノ趣了承喫食時間ハ作業時間ニ通算  
スヘキモノニ無之候



監獄事故

○福島監獄平分監刑事被告人逃走  
四月十二日午前十時五十分福島地方裁判所  
平支部豫審庭から、同地分監拘禁中の被告  
一人一名が、開放してあつた窓を滑つて飛び  
出し、逃走したが、即日午後零時三十分分  
監を距る約十二町西南の田圃中で、應援の  
看守や土地の農夫の手で逮捕した。其の原  
因は、戒護看守が職務上機宜を得なかつた  
爲めと思はれる。

○盛岡監獄刑事被告人逃走  
四月十四日午後二時三十分盛岡監獄拘禁中  
の一刑事被告人は、同地地方裁判所公判廷

内から逃走し、約四五十間を距る路邊の池  
中へ投身したところを追跡の看守が逮捕し  
た。其の原因は前記同様のものと思はれる。

○浦和監獄谷分監刑事被告人逃走  
四月十一日午前三時頃監房窓の硝子戸を外  
し、其の上角に自己の六尺襦の一端を掛け  
襦の取れぬやうに結び節を作り、元のやう  
に硝子戸を塞め込み、襦の一端を首に巻き  
付け、繩を踏み込みとして縊死を遂げた。

○宮城監獄受刑者縊死  
四月十五日午前六時二十五分頃獨居監房拘  
禁中の受刑者が監房の窓を開閉する引繩に  
首を掛けて縊死した。同監では今回右引繩  
を利用せられたのを遺憾とし、知棒を以て  
開閉することに改めた。

○松江監獄受刑者看守を傷害  
五月二日午後一書三十分頃工場に於て、看  
守が受刑者の難儀を制止したところ、受刑  
者の一人が之を怒り、コセム云ふなど放  
言し下駄にて看守の頭部を殴打し、全癒約  
一週間を要する創傷を負はしめた。

少年法及矯正院公布

少年法及矯正院法は今期議會の協賛を経て  
るを以て御裁可法律第四十二號を以て公布す

れた旨報第二九〇九號を以て兩法共その  
施行期日は更に勅令を以て定めらるゝことと  
なつた。

勸勉手当給與令中改正  
四月十五日附勅令第二百五號を以て「司法  
省所管監獄ニ於ケル現業」にも勸勉手当を給  
與せらるゝことに改正された。

感化法の改正  
少年法公布の結果法律第四十四號を以て左  
の感化法は改正された。十日公報

第五條法中ノ通改正  
第五條第一號中「十八才」ヲ「十四才」ニ改メ  
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條第一號ニ規定スル地方長官ノ權限ハ  
少年法ニ依リ保護處分ノ實施ヲ行ハシメ地  
區ニ限リ仍從前ノ例ニ依リ「事官」トシテ  
(參照)ハ明治三十三年三月法律第三十七號  
感化法官官制ニ依リ「事官」トシテ仍從前ノ例  
ニ依リ

第五條 感化院ニハ左ノ各區ノ一ニ該當ス  
ル者ヲ入院セシム

一 滿八歳以上十八歳未満ノ者ニシテ不  
良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲スノ虞  
アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナク地方  
長官ニ於テ入院ヲ必要ト認メタル者

第六條 入院者ノ在院期間ハ滿二十才ヲ越  
ユルコトヲ得ス但シ第五條第三號ニ該當  
スル者ハ此ノ限ニ在ラス

借地借家調停法の制定  
四月十一日附法律第四十一號を以て新に借  
地借家調停法が制定公布された。同法は土地  
又は建物の賃借、地代、家賃其他借地借家關係  
に付爭議を生じたる時、その争書の目的たる  
土地又は建物の所在地を管轄する區裁判所に  
調停の申立を爲すことを定めた法律であつて  
今まで強懸非道と云はれた感家主の、家賃  
踏倒しの店子などを感らじめることが出来る  
だらう。

裁判所構成法中改正  
法律第五十三號を以て裁判所構成法中左の  
通ニ改正されしは

第十四條 區裁判所の破産事件ニ付裁

裁判官資格ヲ有シ朝鮮總督府判  
事又ハ朝鮮總督府檢察事タル者亦同シ  
第七十一條ノ二中「司法省參事官」ノ下ニ朝  
鮮總督府判事朝鮮總督府檢察事朝鮮總督府  
法院判官兼朝鮮總督府法院檢察官關東廳  
法院判官又ハ關東廳法院檢察官ヲ加フ

第二十八條 地方裁判所ノ破産事件ニ付  
第一審ノ裁判權ヲ有ス  
第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判  
權ヲ有ス  
第二 地方裁判所ノ第一審トシテ爲  
シタル決定及命令ニ對スル法律ニ  
對シテ之ヲ決定スル抗告

第二十七條 第二號(ロ)チ左ノ如ク改ム  
中(ロ)大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除外外  
正區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ  
對シテ之ヲ決定スル抗告

第二十八條 削除  
第三十七條 第二號チ左ノ如ク改ム  
第二 大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除外外  
地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル  
決定及命令ニ對スル外律ニ定メタル抗  
告

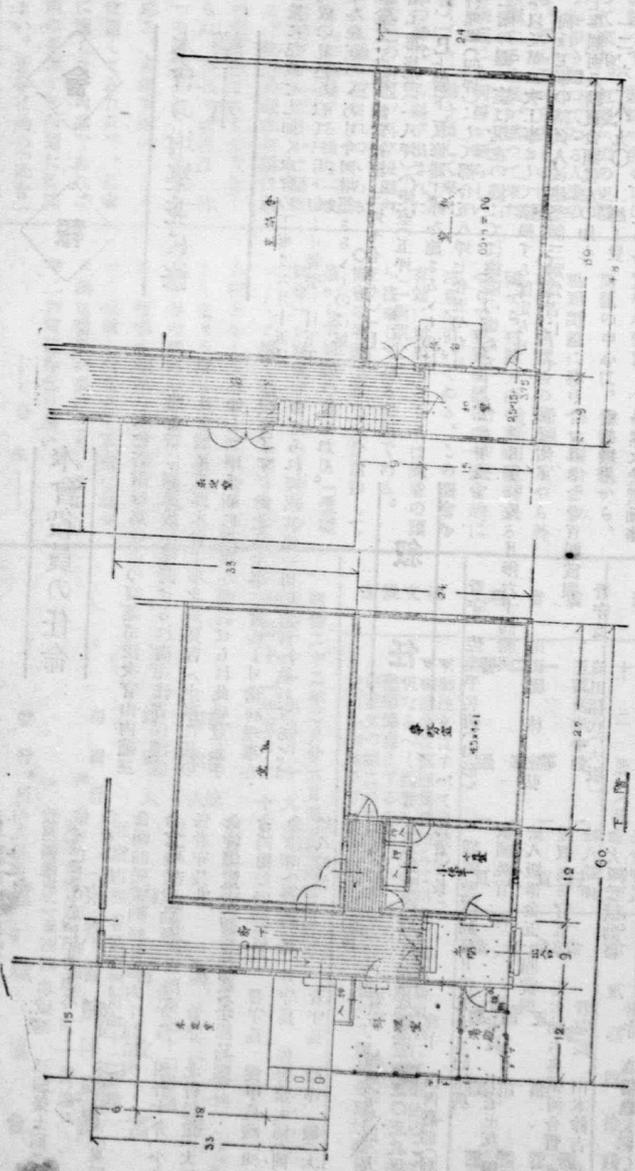
第五十條 第一號チ左ノ如ク改ム  
第一 總審トシテ 第一 第一號ノ旨ヲ違フ  
モノ(イ)上告  
(ロ)地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタ  
ル決定及命令ニ對シテ控訴院ノ決定及命  
令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第六十五條 第一項ノ末尾ニ左ノ如ク加フ  
第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五  
年以上檢察官大學法科教授若ハ辯護  
士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレ  
ズニシテ判事ニ補セラルコトヲ得ヌ

第六十六條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十七條 五年以上判事タル者又ハ五  
年以上檢察官大學法科教授若ハ辯護  
士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレ  
ズニシテ判事ニ補セラルコトヲ得ヌ

「監獄協會増築設計圖」



第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五  
年以上檢察官大學法科教授若ハ辯護  
士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレ  
ズニシテ判事ニ補セラルコトヲ得ヌ

第六十八條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十七條 五年以上判事タル者又ハ五  
年以上檢察官大學法科教授若ハ辯護  
士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレ  
ズニシテ判事ニ補セラルコトヲ得ヌ

第六十六條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十四條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十三條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十二條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得

第六十一條 三年以上帝國大學法科教授  
若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル  
試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢察ニ任セラ  
ルコトヲ得



◇ 第一卷 萬事を教ふ ◇

監獄協會編纂

革製表紙革紐綴込式  
ポイント版約壹千頁美本

改訂  
増補

監獄法規類纂

監獄法規類纂はこの十年以前に編纂されたきり其後補

正の機會がなかつたのを今度改訂増補して直接必要な

監獄及裁判所へ豫約にて實費頒布いたしましたで此際

特に御希望の方へは同じく實費一部金四圓參十錢（送

料共）でお願ひいたします前金にて御申込下さい。

發行所 司法部内 監獄協會 電話 東京 二五〇五 三座 二五〇四